

平成30年度

# ステージラボ

「滋賀セッション」「公立ホール・劇場マネージャーコース」

## ／文化政策幹部セミナー

事業報告書

一般財団法人 地域創造



# 目次

はじめに	2
<b>ステージラボ</b>	
事業概要	3
開催実績	4
都道府県別開催状況	8
<b>「滋賀セッション」</b>	
開催概要	9
各コースコーディネーター・講師紹介	10
研修プログラム	13
1.ホール入門コース	
総評	14
ゼミ記録	15
2.事業入門コース	
総評	20
ゼミ記録	21
3.自主事業（音楽）コース	
総評・ゼミ記録	24
4.共通プログラム	
ゼミ記録	31
参加者の属性	32
参加者名簿	
1.ホール入門コース	33
2.事業入門コース	36
3.自主事業（音楽）コース	39
スタッフ一覧	41
<b>「公立ホール・劇場マネージャーコース」</b>	
開催概要	42
コーディネーター・講師紹介	43
研修プログラム	44
総評	45
ゼミ記録	47
参加者名簿	52
<b>文化政策幹部セミナー</b>	
開催概要	54
コーディネーター・講師紹介	55
研修プログラム	56
総評	57
ゼミ記録	59
参加者名簿	62

## はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、財政支援、研修・交流、情報提供、調査研究などの事業を実施しております。

地域の文化・芸術活動を担う人材の育成に取り組む「研修交流事業」では、財団設立当初から実施している公立文化施設の事業担当者に向けた「ステージラボ」と、市町村長や文化政策担当者に向けた「文化政策幹部セミナー」等があります。

「ステージラボ」は、地域の芸術文化に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムで、初任者に向けた入門コースや、事業企画に取り組む職員に向けたジャンル別の自主事業コースなど、職務内容や経験年数に応じた実践的研修コースを複数実施しています。プログラムは、セミナー、グループ討論、ワークショップ等で構成され、特に実演家による芸術体験ワークショップが充実しています。また、先進的な取り組みを行う公立文化施設を会場として開催し、全国各地との交流を図っていることも特徴のひとつです。

「文化政策幹部セミナー」は、地方公共団体における文化政策担当の幹部職員を主な対象とし、文化・芸術による地域づくりの意義や役割に対する理解を深め、文化・芸術の振興による地域社会の一層の発展を図るための政策立案能力を高めることを目的として実施しています。

両事業とも、現場経験の豊富な実務家にコーディネーターを委嘱し、プログラムを作成しています。短期集中の少人数によるゼミ形式でのワークショップやディスカッション等、講師と参加者の双方向型の研修となっています。

平成 30 年度は、7 月に滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県大津市）で「ステージラボ 滋賀セッション」を開催し、10 月に地域創造事務所（東京都港区）で「ステージラボ 公立ホール・劇場マネージャーコース」と「文化政策幹部セミナー」を同時開催しました。ステージラボ 70 人、文化政策幹部セミナー 20 人という多くの方々が全国から参加し、現在抱えるそれぞれの課題の共有や、検討を共におこないました。本報告書では、平成 30 年度に開催した「ステージラボ」「文化政策幹部セミナー」について実施状況を報告します。

最後に、事業開催にあたりご協力をいただいたコーディネーター、講師、開催館の皆様に厚く御礼を申し上げます。

## 事業概要

公共ホール・劇場の運営については、ハードウェア（施設）、ソフトウェア（活動）、ヒューマンウェア（人材、組織、職能）の3要素が一体不可分なものとして、相互にバランスよく結びついたものとして存在しなければなりません。

一般財団法人地域創造では、地域の公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員の方々を対象とする研修交流事業を実施し、ソフトウェアを支えるヒューマンウェアの確立という課題面から、地域における創造的な芸術環境づくりをサポートしています。

平成30年度は、滋賀セッションを開催するとともに、東京・赤坂で「公立ホール・劇場 マネージャーコース」を「文化政策幹部セミナー」と同時開催しました。滋賀セッションでは、全国各地から56名の方々に参加いただき、研修を通してソフトウェアに関する諸課題の検討を進めてきました。

ヒューマンウェアをめぐる課題は、地域やホール毎に様々な形で存在しています。このため、効果的な方法論を短時間に見いだすことはなかなか困難なことではありますが、地域創造ではステージラボという研修手法を通じて、今後とも全国各地の公共ホール・劇場、美術館、地方公共団体関係者の方々と、この課題の検討を進めていきたいと考えております。

### ●事業目的

- ① 公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体などの芸術環境づくりに取り組む役職員を対象とした実践的研修とネットワークの形成の場の提供
- ② 研修の実践を踏まえた人材育成プログラムのあり方の探求

### ●運営方針

ステージラボは、地域における文化・芸術の創造拠点（アーツセンター）となる公共ホール・劇場、美術館の企画・制作や事業運営に関わる役職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムにより実施しています。

研修内容の主目的は、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携（ネットワークづくり）による効果的な芸術支援（育成）の環境を整えることにあります。

# 開催実績

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成6年度	埼玉セッション	平成 6年 11月 30日 ～ 12月 2日	彩の国さいたま 芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 音楽コース 演劇ダンスコース	23名 23名 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	18名 19名 19名
平成7年度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース ステージ創造環境コース ステージ鑑賞共感コース	21名 12名 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	23名 33名 20名
平成8年度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 音楽事業コース 演劇事業コース	21名 18名 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	17名 22名 21名
平成9年度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合 コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース ホール運営入門コース 自主事業(音楽)コース 自主事業(演劇・ダンス)コース	19名 20名 15名 15名
	世田谷セッション	平成10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷 パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17名 26名 16名 19名
平成10年度	札幌セッション	平成10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	14名 20名 15名 20名
	神戸セッション	平成11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジ センター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇・ダンスコース 音楽コース	15名 24名 11名 19名
平成11年度	静岡セッション	平成11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンション アーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	25名 20名 21名
	高知セッション	平成12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 自主事業コース 美術コース	14名 20名 21名 15名
平成12年度	金沢セッション	平成12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	26名 19名 20名 16名
	熊本セッション	平成13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 運営基礎コース 演劇コース 音楽コース	19名 20名 12名 15名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 23名 演劇コース 13名 音楽コース 18名 美術コース 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース 17名 ホール入門コース 22名 演劇コース 9名 音楽コース 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 24名 自主事業入門コース 21名 自主事業企画・制作コース 21名 ホール管理・運営コース 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 23名 自主事業入門コース 20名 自主事業企画・制作コース 16名 アートミュージアムラボ 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 25名 自主事業入門コース 23名 自主事業企画・制作コース 21名 アートミュージアムラボ 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 17名 文化政策・企画コース 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都市)	69名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 13名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 17名 アートミュージアムラボ 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 15名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 12名 アートミュージアムラボ 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 10名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 19名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 15名 アートミュージアムラボ 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 22名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 10名 アートミュージアムラボ 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催) 鹿児島セッション	平成21年9月3日～5日 平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	地域創造会議室 鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	16名 55名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名 ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ 高知セッション	平成23年 3月 9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ 埼玉セッション 栃木セッション	平成23年12月7日～9日 平成24年 2月 2 1日 ～ 2月 2 4日	埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市) 栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	16名 53名	アートミュージアムラボ 16名 ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月 2 9日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ 静岡セッション	平成25年 3月 6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成24年 6月 2 5日 ～ 6月 2 8日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子ども)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ 宮城セッション	平成25年 12月 4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成25年 2月 1 8日 ～ 2月 2 1日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成26年度	新潟セッション	平成26年 7月 1日 ～ 7月 4日	リゅうとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	58名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	アートミュージアムラボ 愛知セッション	平成27年 1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋)	12名	アートミュージアムラボ 12名
	広島セッション	平成27年 2月 1 7日 ～ 2月 2 0日	アステールプラザ (広島県広島市)	47名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 13名

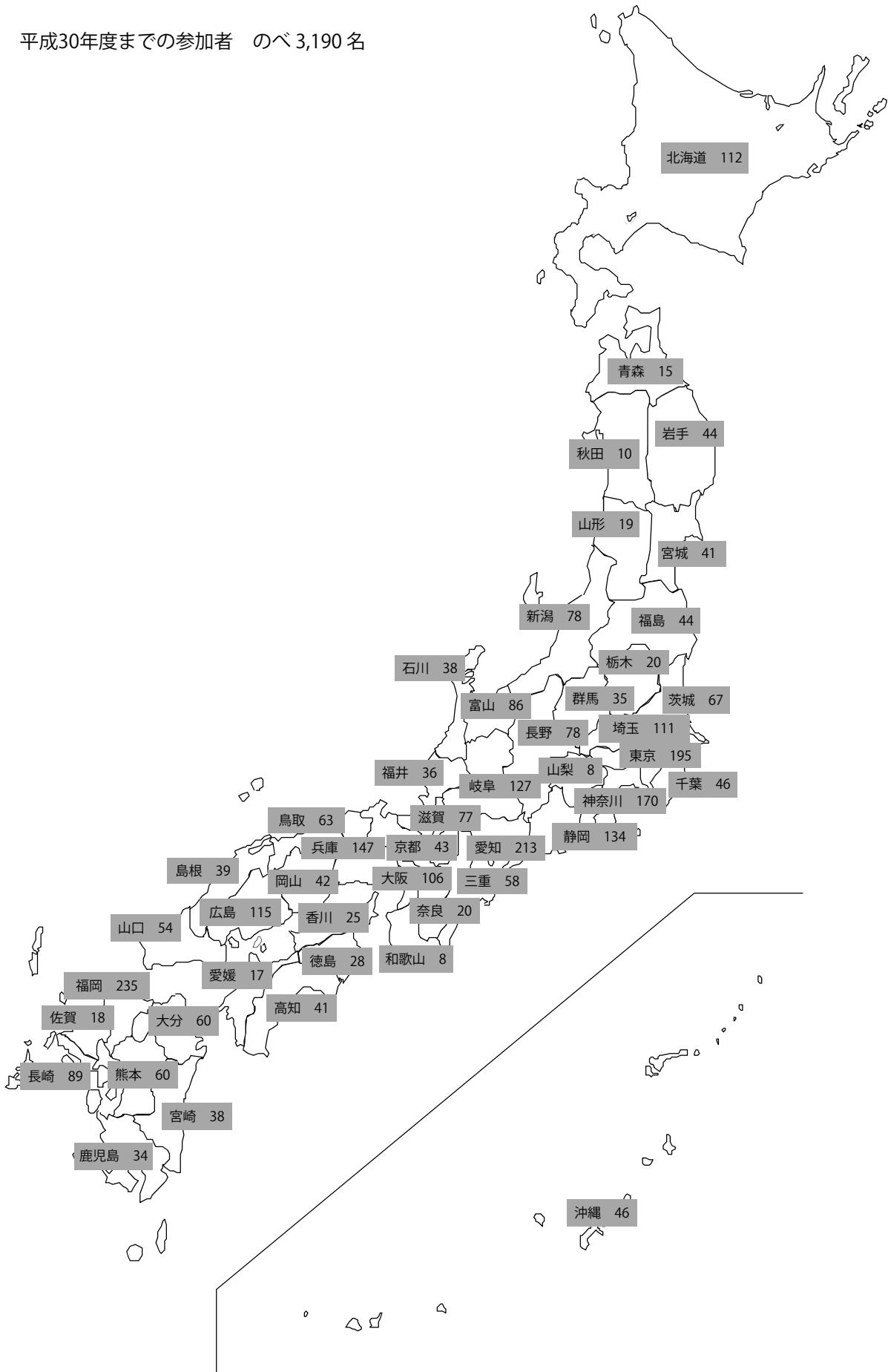


年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成27年度	札幌セッション	平成27年 7月 7日 ～ 7月10日	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	43名	ホール入門コース 17名 事業入門コース 10名 音楽コース 16名
	(東京・赤坂開催)	平成27年10月6日～8日	地域創造会議室	17名	公立ホール・劇場マネージャーコース 17名
	北九州セッション	平成28年 2月16日 ～ 2月19日	北九州芸術劇場 (福岡県北九州市)	48名	ホール入門コース 20名 音楽コース 15名 演劇コース 13名
平成28年度	上田セッション	平成28年 7月 5日 ～ 7月 8日	サントミューゼ 上田市交流 文化芸術センター (長野県上田市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 17名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名
	(東京・赤坂開催)	平成28年10月12日～14日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	豊田セッション	平成29年 2月21日 ～ 2月24日	豊田市民文化会館 (愛知県豊田市)	59名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成29年度	高知セッション	平成29年 7月 4日 ～ 7月 7日	高知県立美術館 (高知県高知市)	41名	ホール入門コース 17名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 10名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成29年10月16日～18日	地域創造会議室	19名	公立ホール・劇場マネージャーコース 19名
	横浜セッション	平成30年 2月20日 ～ 2月23日	横浜みなとみらいホール (神奈川県横浜市)	42名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名
平成30年度	滋賀セッション	平成30年 7月 3日 ～ 7月 6日	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール (滋賀県大津市)	56名	ホール入門コース 21名 事業入門コース 21名 自主事業(音楽)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成30年10月16日～18日	地域創造会議室	14名	公立ホール・劇場マネージャーコース 14名

3,190名 (H30年度終了時点での修了者)

# 都道府県別開催状況

平成30年度までの参加者 のべ3,190名



## 開催概要

### 1. 開催日程

平成30年7月3日（火）～7月6日（金）

### 2. 会場

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール  
（滋賀県大津市打出浜15-1）

### 3. 開催体制

主催：一般財団法人 地域創造  
共催：公益財団法人 びわ湖芸術文化財団  
後援：滋賀県

### 4. 参加対象者

#### ●ホール入門コース

公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において、業務経験年数1年半未満程度（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員

#### ●事業入門コース

自主事業を実施している公共ホール・劇場において、業務経験年数が1～3年程度の職員

#### ●自主事業（音楽）コース

自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員

## 各コースコーディネーター・講師紹介

### 1. ホール入門コース

#### ● コーディネーター

吉本光宏 | (株)ニッセイ基礎研究所 研究理事 [社会研究部 芸術文化プロジェクト室長]  
[メッセージ]

皆さんは劇場やホールのお仕事で、あるいはこれから開館する施設でどんな夢を実現したいと考えていますか。芸術や文化には地域を変える力があります。子供たちの能力を引き出し、お年寄りの生きがいを紡ぎ出すこともできます。そして劇場やホールはその拠点となる可能性を秘めています。今回の入門コースでは、先人たちが劇場やホールでどんな夢をどのように実現してきたかを学び、アーティストがワークショップに込めた願いを体験してもらう予定です。でもそれが直接参考になるとは限りませんし、答えはひとつではありません。このコースで学び取ってほしいことは、何よりも夢を描く力、考え続ける姿勢、そしてそれを実現する実行力です。決してホール運営の実務やノウハウではありません。文化行政や劇場やホールを取り巻く環境は楽観できない状況です。そんな中、劇場やホールで仕事をするとすることは、地域にとってどんな意味や価値を持っているのか、そこにはどんな可能性があるのか、そして乗り越えなければならないハードルは何なのか。4日間のゼミで皆さんと夢を語り合い、その実現に向けた道筋を一緒に考えたいと思います。

[プロフィール]

1958年徳島県生。早稲田大学大学院修了(都市計画)後、社会工学研究所などを経て1989年からニッセイ基礎研究所。世田谷パブリックシアターやいわきアリオス、東京オペラシティ、国立新美術館等の文化施設開発、東京国際フォーラムや電通新社屋のアートワーク計画などのコンサルタントとして活躍する他、文化政策、文化施設の事業・運営評価(北九州芸術劇場、彩の国さいたま芸術劇場、可児市文化創造センター、上田市交流文化センター等)、創造都市、オリンピックと文化など、アートマネジメント分野の幅広い調査研究に取り組む。現在、文化庁文化審議会文化政策部会委員、東京2020組織委員会文化・教育委員、東京芸術文化評議会評議員/文化プログラム推進部会部会長、(公財)企業メセナ協議会理事、(公財)国際文化会館評議員、東京藝術大学非常勤講師など。主な著作・研究レポートに「文化からの復興—市民と震災といわきアリオスと(編著、水曜社)」「再考、文化政策(ニッセイ基礎研究所報)」「ロンドン2012大会—文化プログラムの全国展開はどのように行われたのか(雑誌「地域創造」)」「アート戦略都市(監修、鹿島出版会)」など。

#### ● 講師

セレノグラフィカ(隅地茉歩、阿比留修一) | ダンサー・コレオグラファー

龍 亜希 | 北九州芸術劇場 プロデューサー

小澤櫻作 | 上田市交流文化芸術センター プロデューサー

篠田信子 | 富良野メセナ協会代表/喫茶・ギャラリーあかなら代表

宮本妥子 | パーカッションリスト

中川賢一 | ピアニスト

## 2. 事業入門コース

### ● コーディネーター

津村 卓 | 上田市交流文化芸術センター館長／北九州芸術劇場顧問／(一財)地域創造プロデューサー

[メッセージ]

この国はこの四半世紀、多くの大災害を経験しました。私たち人間は自然という力には及ばず、その度に“大切なことは何なのか”と考えてきたように思います。幸せに、そして社会との絆を持って生きるという事を支えてくれるものは何なのか。人と人との出会いを作り、つなげてくれるものは何なのかと。その答えのひとつが“文化”であり“芸術”であるということ、私たちは知りました。

そのなかで市民と寄り添うとともに、教育から福祉そして街づくりにまで芸術はその力を提供することを期待されるなか、地域の劇場・ホールの役割と責任は大きくなってきています。芸術が持つ潜在的力をどのようにコーディネートしていくか、これは劇場・ホールにとって、新しいスキルと言ってよいのではないのでしょうか。このスキルを得るためには芸術とアーティストの本来の力と姿を知ることから始まると思います。では何をしなければならないのか。

今回のステージラボでは、あらためて劇場・ホールが担う舞台芸術とアーティストの意味と力、そして素晴らしさを共有し、劇場・ホールの事業のあり方を参加者みんなで考えていきたいと思います。

[プロフィール]

1987年より2007年まで兵庫県伊丹市の伊丹市立演劇ホール（アイホール）チーフプロデューサー。1995年より財団法人地域創造プロデューサー。1997年から2000年びわ湖ホール演劇プロデューサー、2002年より北九州芸術劇場チーフプロデューサー、2008年より2014年まで館長、2015年より劇場顧問。2001年より長崎市文化アドバイザーを務める。2013年10月より長野県上田市交流文化芸術センター参与。2015年より館長。その他松本市民芸術館、上田市交流文化芸術センター企画運営委員会委員長。東京都文化施設指定管理者選定委員。東京都アジア舞台芸術祭実行委員会委員、他。

### ● 講師

北村成美 | ダンサー・コレオグラファー

宮本妥子 | パーカッショニスト

後藤ゆり子 | パーカッショニスト

楠瀬寿賀子 | 音楽企画コーディネーター

内藤裕敬 | 劇作家・演出家

セレノグラフィカ（隅地菜歩、阿比留修一） | ダンサー・コレオグラファー

佐東範一 | JCDN 代表

### 3. 自主事業（音楽コース）

#### ● コーディネーター

中村 透 | 作曲家／芸術文化学博士／琉球大学名誉教授／（一財）地域創造顧問／  
静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ芸術監督

#### [メッセージ]

わずか150年前までの日本は、“くに”という名の多くの小宇宙から成り立っていました。独自の自然環境、歴史、言語、風俗・習慣、産物を集積し継承し、それらが相まってお国柄という名の文化を発信していたのでした。今日政治・経済で東京を中心に一極化したこの“くに”は、グローバル化の波にも吞まれ、いまや地域＝ローカルという辺境に位置づけられて文化芸術の受容的消費地に追いやられる傾向にあります。その一方で、お国柄の遺伝子は、伝統的な民俗芸能や祭事を通して主体的に伝承されています。また、かつてのような地縁・血縁コミュニティによらない、特定の趣向性をもつ市民の音楽団体や、個性的なプロ・アーティストも各地での活発な音楽活動に生きています。音楽文化の多様な資源が、触れ合うことがないまま、断裂した状態で併存しているのです。

それぞれの地域に依って立つ公立文化ホールの存在意義は、こうした足元にある音楽文化の多様な資源・人材を発掘して再編し、協働の創造活動、新たなコミュニティ構築による音楽文化の活性化に見出すことができるのではないのでしょうか。本コースでは多くの先進の実例に学びながら、足元を掘りつつ質の高い音楽創造の方法論をともに学びます。

#### [プロフィール]

国立音楽大学大学院作曲専攻を経て、1975年から沖縄に在住。琉球大学教育学部准教授・教授を歴任し、2008～2012年教育学部長。1994～2006年、2014～2017年の二期にわたり南城市（旧佐敷町）文化センター・シュガーホール芸術監督。2017年4月より静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップの芸術監督を勤める。国民音楽振興財団吹奏楽作曲コンクール第1位、オペラ「キジムナー時を翔る」で文化庁優秀舞台芸術創作奨励オペラ部門特別賞受賞。オペラ「御柱（長野）」、「あちゃーあきぬ島（沖縄）」、「遣唐使物語（奈良）」など、地域の歴史文化を掘り起こして題材とした演劇的音楽舞台作品を創造し、制作上演に関わってきた。音楽家と市民とを結ぶ公共ホールの企画・運営にも長年参加し、その実例を著書「愛される音楽ホールのつくりかた」（水曜社）ほかの諸論文で著している。シュガーホールでは、市民とアーティストの協働によるミュージカル創造、アウトリーチ等の教育プログラムの開発、地域人材の発掘と養成に関するプロジェクト等を主導してきた。

#### ● 講師

北島佳奈 | ヴァイオリニスト  
松本太郎 | 尺八奏者  
加地美秀子 | ピアニスト  
松浦俊和 | 元大津市歴史博物館館長

※中村透様におかれましては、2019年2月7日にご逝去されました。ここに深く追悼の意を表するとともに謹んでお悔み申し上げます。

# 研修プログラム

ホール入門コース コーディネーター：吉本 光宏		事業入門コース コーディネーター：津村 卓		自主事業(音楽)コース コーディネーター：中村 透		
7月3日 第1日	14:00~15:00 開講式・オリエンテーション・施設見学 会場：中ホール					
	ゼミ1 15:00~18:00 ダンスワークショップ：からだからだ 講師：セレノグラフィカ（ダンサー・コレオグラファー） 会場：B1 リハーサル室、大ホールホワイエ	ゼミ1 15:00~18:00 身体の解放と自己紹介 講師：北村成美（ダンサー・コレオグラファー） 津村 卓 会場：中ホール舞台	ゼミ1 15:00~18:00 コミュニティ・ワークショップと概論ゼミ 講師：中村 透 会場：研修室			
18:30~20:00 全体交流会 会場：2Fラウンジ						
7月4日 第2日	ゼミ2 10:00~12:00 先人に学ぶ①：北九州芸術劇場の実践から 講師：龍 亜希（北九州芸術劇場プロデューサー） 会場：研修室	ゼミ2 10:00~12:00 劇場法に沿って、劇場・ホールの仕事を再考してみる 講師：津村 卓 会場：楽屋9	ゼミ2 10:00~12:00 耳を澄ます〜足元の文化に潜む音楽の芽〜 講師：中村 透 会場：小ホール			
	ゼミ3 13:00~15:00 先人に学ぶ②：サントミューゼの実践から 講師：小澤櫻作（上田市交流文化芸術センタープロデューサー） 会場：研修室	ゼミ3 13:00~17:15 ワークショップを経験してコンサート企画から創ってみる 講師：宮本妥子（パーカッショニスト）、 後藤ゆり子（パーカッショニスト）、 楠瀬寿賀子（音楽コーディネーター） 会場：中ホール舞台	ゼミ3 13:00~15:00 サウンドと語り合う〜イメージ編〜 講師：北島佳奈（ヴァイオリニスト） 松本太郎（尺八奏者） 加地美秀子（ピアニスト） 会場：小ホール			
	ゼミ4 15:15~17:15 先人に学ぶ③：質疑・意見交換〜夢を語る（グループワーク） 講師：小澤櫻作、龍 亜希、吉本光宏 会場：研修室	共通プログラム 17:30~19:30 合唱の愉しみ〜人はなぜ歌声を和することに喜びを感じるのか？ 講師：中村 透 本山秀毅（大阪音楽大学学長／びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者） 村島美也子（びわ湖ホール事業部プロデューサー）				
7月5日 第3日	ゼミ5 10:00~12:00 地域と向き合う①：拡張する劇場・ホールの役割 講師：吉本光宏 会場：練習室1	ゼミ4 10:00~14:45 ワークショップを経験して、クリエイションと公演の企画を考える 講師：内藤裕敬（作家・演出家・南河内万歳一座座長） 津村 卓 会場：リハーサル室	ゼミ5 10:00~12:00 耳を澄まし、目を凝らす〜リフレクション〜 講師：中村 透 会場：研修室			
	ゼミ6 13:00~15:00 地域と向き合う②：演劇と富良野の20年 講師：篠田信子（富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表） 会場：練習室1			ゼミ6・7 13:00~17:45 近江の歴史文化を訪ねて〜フィールドワーク〜 講師：松浦俊和（元大津市歴史博物館館長） 会場：大津市内		
	ゼミ7 15:15~17:45 地域と向き合う③：音楽アウトリーチ体験 講師：宮本妥子（パーカッショニスト） 中川賢一（ピアニスト） 会場：中ホール	ゼミ5 15:00~19:30 コンテンポラリーダンス編ワークショップを経験して、クリエイションと公演を企画から創ってみる 講師：セレノグラフィカ（ダンサー・コレオグラファー） 佐東範一（JCDN代表） 会場：リハーサル室				
	ゼミ8 18:00~20:00 夢に形を（グループ・ワーク） 講師：小澤櫻作、篠田信子、吉本光宏 会場：中ホール、練習室1、楽屋9			ゼミ8 18:00~19:30 企画書を作る 講師：中村 透 会場：研修室		
7月6日 第4日	ゼミ9 9:30~11:30 夢宣言 講師：小澤櫻作、篠田信子、吉本光宏 会場：中ホール	ゼミ6 9:30~11:30 フィードバック 芸術が果たせること、私たちが出来ること 講師：津村 卓 会場：リハーサル室	ゼミ9 9:30~11:30 企画を検証し、先行事例に学ぶ 講師：中村 透 会場：研修室			
12:00~13:00 修了式 会場：中ホール						

## 1. ホール入門コース 総評

コーディネーター 吉本光宏

今回の入門コースには、北海道から九州まで、全国から21名に参加いただきました。経験年数は1年前後が大半で、中には4月に着任したばかりという受講生も含まれていました。

ゼミ全体を通じて重視したのは、具体的な運営や事業のノウハウを伝える、ということではなく、受講生がそれぞれの館の特性や環境条件を踏まえたうえで、目標を達成するために何を、どのように行うべきか、自分たち自身で考え、その実践と向き合うことを、4日間のゼミやワークショップを通じて学び取ってほしい、ということでした。

その際、受講生一人ひとりの思いやステージラボへの参加の動機を大切にしてもらうため、事前課題として、それぞれの劇場やホールで実現したいと思っている「夢」を考え、提出してもらいました。事業や運営など内容は受講生に任せましたが、それが自館のミッション(目的・目標)とどのようにつながるか、地域や市民にどんな成果をもたらすか、という二つの視点を重視するという課題にしました。ただしゼミでは、事前課題で提出した内容にこだわることなく、ワークショップや講義、グループディスカッションなどの4日間のゼミを通して、もう一度、受講生が取り組みたいことを一から考え、まとめて直してもらう、というのがコーディネーターの意図でした。

1日目は、身体や気持ち、思考をほぐすダンスワークショップでスタートした後、4つのグループに分かれてもらい、以降は基本的にグループ単位での進行としました。2日目は「先人に学ぶ」として、北九州芸術劇場と上田市交流文化芸術センターサントミュージーゼの実践例の講義の後、質疑応答と意見交換。3日目は「地域と向き合う」をテーマに、コーディネーターによる国内外の事例を交えた講義と、富良野での実践例の講義の後、音楽アウトリーチ体験を経て、グループワークによる夢のとりまとめ。そして最終日は成果発表というのが、今回の入門コース全体の構成です。

最後の発表は「夢宣言」として、それぞれの夢の「言語化」に取り組んでもらいました。言葉にすることでねらいや内容が明確になるだけではなく、それを仲間と共有すること、組織内や設置団体に対して説明し、共感を得ることが重要だと思ったためです。その短いテキストをパワーポイントにして中ホールのステージ奥のスクリーンに大写しにし、その前で一人ひとり発表してもらいました。手元に残っているパワーポイントのデータを読み直すと、それぞれの受講生の思いや、4日間のゼミで真剣に取り組んだ足跡と成果が鮮明に浮かび上がってきます。

ステージラボ滋賀セッションから約2ヶ月、受講生はそれぞれの劇場やホールの持ち場で、日々奮闘しているに違いありません。パワーポイントに残した夢をそのまま、あるいは直ぐに実現することは容易なことではないでしょう。でも、時にはそれを読み返し、4日間のゼミで得た刺激や体験、知識や思考、そして一緒に過ごした受講生の仲間のことを思い出し、諦めることなく、地域や住民のため、それぞれの劇場やホールの現場で汗を流してもらえたら、コーディネーターとしてはそれに代わる喜びはありません。

最後になりますが、今回、ステージラボ入門コースのコーディネーターという貴重な機会を与えていただいた(一財)地域創造や共催者として会場をご提供いただいた(公財)びわ湖芸術文化財団、お忙しい中ゼミをお引き受けいただいた講師の方々、そして入門コースの受講生の皆さんに心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



# 1. ホール入門コース ゼミ記録

## 第1日 7月3日 (火)

### ● ゼミ1「ダンスワークショップ：からだからだ」 講師：セレノグラフィカ(ダンサー・コレオグラファー)

入門コースのスタートとして、経験年数の浅い受講生の緊張を解きほぐし、身も心も「殻」を脱ぎ捨ててもらうため、セレノグラフィカに「からだからだ」と題したダンスワークショップをお願いした。まず、B1リハーサル室を会場に自己紹介の後、歩いたり、止まったり、ポーズを取ったり、二人ペアで動いたりの身体を動かすワークショップ。その後、2つのグループに分かれてシンプルな振り付けで踊りを披露。休憩を挟んで大ホールホワイエに移動し、びわ湖を背景にそれぞれのチームが「忘れられない夏」と題してショーイングを行った。最後に全員で車座になってふり返りを行い、体験を共有する時間を持ったことがとても良かった。

その後、リハーサル室に戻り、入門コースのオリエンを行って、設置団体の規模に沿って、都道府県、政令市、中規模市(人口10~50万人)、小規模市(人口10万人未満)の4つにグルーピングを行った。



## 第2日 7月4日 (水)

### ● ゼミ2「先人に学ぶ①：北九州芸術劇場の実践から」 講師：龍 亜希 | 北九州芸術劇場プロデューサー

2003年に開館し、国内でも最もアクティブに各種事業を展開している北九州芸術劇場の事業や運営について、プロデューサーの龍亜希さんに講義をお願いした。「創る、育つ、観る、支える」というコンセプトに基づいた事業のねらいや構成、運営の基本的な考え方などを交えながら、具体的な事業の内容や運営の実態、これまでの成果などを総合的に学んだ。「北九州芸術工場地帯」と題して行われている地域と連携した各種プログラムや、北九州市身体障害者福祉協会アートセンターと協働で障がいのある子どもたちを対象に実施した事業「レインボードロップス ダンス公演『探せ宝を、虹のふもとに!』(振付・構成・演出はゼミ1の講師セレノグラフィカ)の映像などから、受講生は大いに刺激を受けたようだった。



● **ゼミ3 「先人に学ぶ②：サントミュージゼの実践から」**  
講師：小澤櫻作 | 上田市交流文化芸術センター  
プロデューサー

政令市が設置し、財団が指定管理者として運営する北九州芸術劇場に対し、サントミュージゼは人口約15万人の上田市が設置した劇場・ホールで、2014年の開館以来、直営で多彩な事業を展開している。講師をお願いしたプロデューサーの小澤櫻作さんからは、事業運営の根底にあるミッション、サントミュージゼの活動のベースとなる4つのプログラム（地域、創造、ネットワーク、研修）、「参加」から始まる劇場の好循環など、事業や運営の基本的な考え方や方針の説明があり、その後、具体的な事業や運営について、写真や映像を使って詳しく紹介いただいた。特に、上田スタイルとして紹介された経済性や損益分岐点、観客の拡大などに関する考え方と実践は、受講生にとって大いに参考になったと思われる。



● **ゼミ4 「先人に学ぶ③：質疑・意見交換」**  
～「夢を語る（グループワーク）」～  
講師：小澤櫻作、龍 亜希、吉本光宏

前半は、先の二つのゼミで学んだ北九州芸術劇場、サントミュージゼの実践のうち、受講生の劇場・ホールにとって参考になりそうなポイントについて、まずコーディネーターから二人の講師に質問を行い、より深く理解してもらった後、受講生からも質問を受け付け、質疑、意見交換の場とした。後半は、事前課題で作成した夢に基づいて、グループごとに受講生の思いやアイデアを他の受講生とシェアし、小澤さん、龍さんからもアドバイスをもらいながら、グループ内での意見交換を行った。



### 第3日 7月5日 (木)

---

#### ● ゼミ5「地域と向き合う①：拡張する劇場・ホールの役割」 講師：吉本光宏

最近になって拡張しつつある芸術文化や劇場・ホールの社会的役割について、「経済・産業」「教育・福祉」「地域創生・観光」の3分野に分けて、その背景や概況を解説した後、写真や映像を使いながら、教育や福祉、社会的課題とアートが向き合うことでどんな成果が生まれているか、国内外の実践例を紹介した。それら芸術文化の経済的・社会的価値は、2017年6月の文化芸術基本法の改正以降、ますます注目されるようになっているが、劇場・ホールにとっては、芸術文化の本質的価値を見失うことなく、事業や運営を行うことが肝要であり、そこから地域活力の創出につなげるべきである点を、最後に強調した。



#### ● ゼミ6「地域と向き合う②：演劇と富良野の20年」 講師：篠田信子 | 富良野メセナ協会代表、 喫茶・ギャラリーあかなら代表

民間の立場から、演劇による富良野のまちづくりを推進してきた篠田信子さんを講師にお迎えし、全国第一号 NPO の設立から、富良野演劇工場の指定管理、そして富良野メセナ協会や喫茶・ギャラリーあかならでの取組まで、これまでの20年の実践を語っていただいた。小さな民間団体であっても、信念を持って取り組めば、芸術文化によって地域に活力をもたらすことができる、ということを受講生は感じ取ってもらえたのではないと思う。特に、様々なハードルや反対を乗り越えながら、活動を継続させて具体的な成果に結びつけた篠田さんの熱い姿勢には、学ぶところの多いゼミとなった。



### ● ゼミ7「地域と向き合う③：音楽アウトリーチ体験」

講師：宮本妥子 | パーカッショニスト

中川賢一 | ピアノ

地域創造のおんかつを含め、各地で様々なアウトリーチやワークショップの経験豊富な宮本妥子さんと中川賢一さんをお迎えし、音楽アウトリーチとワークショップを行った。前半は、模擬アウトリーチとして、お二人が作り上げ、各地で実施してきた45分のプログラムを、受講生が小学生という設定で体験、後半は受講生が参加する色と言葉と音によるワークショップ、その後、二人のアーティストに対する質疑応答と、充実した時間となった。特にワークショップは、グループに分かれて好きな色から思いつく言葉を連想してもらい、そこから短い詩を創作、その後、二人の演奏家に打楽器とピアノの指導を受け、グループごとに練習して発表会を行うという参加性の強い内容だった。

いずれも中ホールの上舞台上で実施させていただいたが、びわ湖ホールの上舞台スタッフの皆さんに魅力的な照明演出を入れてもらい、二人の渾身の演奏と合わせ、心に残る素晴らしい音楽体験となった。



### ● ゼミ8「夢に形を（グループ・ワーク）」

講師：小澤櫻作、篠田信子、吉本光宏

ここまでのゼミでの学びを踏まえ、グループ内で他の受講生と意見交換しつつ、小澤さん、篠田さん、コーディネーターとも相談しながら、それぞれが取り組みたい夢をまとめてもらった。その際、夢の内容をより明確なものとするため、200字を目処に短い文章を作成し、それをメールで送ってもらって、翌日の発表用のパワーポイントを事務局とコーディネーターで作成した。自分の取り組みたい内容を言語化し、短い文章にまとめることは、受講生にとって意味のある作業になったのではないかと思う。

## 第4日 7月6日 (金)

---

### ● ゼミ9「夢宣言」

講師：小澤櫻作、篠田信子、吉本光宏

入門コース最後のゼミは「夢宣言」として、びわ湖ホール中ホールの舞台と客席を活用させていただいた。発表はグループごとに数々の舞台作品が演じられたステージに立ち、前夜に作成したテキストをパワーポイントが大写しになったスクリーンを背に、一人ひとりスポットライトを当てて発表する形とした。グループ全員の発表が終わった時点で、グループごとに客席の講師や受講生からコメントをもらい、最後に、コーディネーターからまとめとして、受講者に6つのメッセージを伝えて、4日間のゼミを終了した。



## 2. 事業入門コース 総評

コーディネーター 津村 卓

ステージラボびわ湖セッション事業入門コースに参加の皆さん「お疲れさまでした」4日間という長くもあり、終わってみれば短い研修会でしたが、今回は台風の影響を受けたこともあり、参加者また講師全員が帰り着く最後まで気が抜けない記憶に残るラボでした。

メッセージでもお伝えしましたが、この国は四半世紀において大災害に加え、多くの社会的課題、また街としての課題を抱え“大切なことは何なのか”と考えざるを得ないなか、幸せにそして社会との絆を持って生きるという事を支えてくれるもの。そして人と人との出会いを作り、つなげてくれるものは何なのかと考えるなか、その答えのひとつが“文化”であり“芸術”であるということに気づきました。では、どうすればそれが可能になるのかを考えるラボに出来ればと思っていました。

全ての地域ではないですが、今や教育から福祉そして街づくりにまで芸術はその力を提供することを期待されるようになってきたなか、地域の劇場・ホールがいかにコーディネートしていけばよいのかは劇場・ホールの制作および経営にとって新しいスキルであり、これこそが芸術とアーティストの本来の力を提供していく仕事であると思います。しかし何から取っかかれば良いのか、また何を大切に考えればよいのかという答えを導き出すのは難しいことだと思います。特に最近では「社会包摂」というような便利な概念を持ち込み、芸術やアーティストをツールとしてだけでとらえるようなことが、語られていることをよく見かけます。アーティストに対するリスクや、その本質を捉えることなく、ただアーティストを学校や福祉施設等にアウトリーチ事業として出向いてもらう事だけで、まったくアーティストとの間で、コーディネーターとしての作業を行っていないというような事例もあるようです。例えば子供たちに重要なことのひとつは、創造的な表現や新しい価値を生み出すことに生涯をささげているアーティストたちと出会い、作品創造というアーティストの本来の仕事に立ち会うことではないでしょうか。これはクリエイションに直接かかわれば良いですが、全ての劇場・ホール出来ることではないと思います。その場合は創造型の劇場・ホールと公演として、また人的にネットワークする機会等を作ればチャンスはあると思います。

今回のステージラボでは、あらためて劇場・ホールが担う舞台芸術とアーティストの意味と力そして素晴らしさを共有するために、作品を創るという劇場・ホールの原点を考えてみました。アーティストと制作者がどのような関係性を作り出し、お互いの役割をどのように構築していくかが、少しでも垣間見ることが出来ていたら幸いです。

今回はびわ湖ホールのスタッフの皆様には、打ち合わせの遥か上のスタッフワークをして頂き感謝しています。このことも参加者には学びのひとつになったと思います。最後になりましたが講師の皆さまにも感謝いたします。「ありがとうございました」そして参加者の皆さん本当に「お疲れさまでした」これからの素敵な仕事を期待しています。

## 2. 事業入門コース ゼミ記録

### 第1日 7月3日 (火)

---

#### ● ゼミ1「身体の解放と自己紹介」

講師：北村成美 | ダンサー・コレオグラファー、津村 卓

びわ湖ホールの中ホールという国内外のアーティストが公演を実施するステージを使わせてもらった。まずは「なにわのコレオグラファー」こと北村成美さんのダンスのワークショップを受けてもらうことから始めた。かしまった振付や決まり切った動きではなく、自分たちが感じるままを体の動きにしていってワークショップ。「解放」された素敵な踊りが展開されたと思う。

そのあと、一人ずつステージのセンターに立ち、スポットを浴びながら自分の事を紹介することで、「緊張」を味わってもらった。人前でステージで表現するアーティストたちの気持ちをほんの少し感じて貰えたのではないだろうか。



### 第2日 7月4日 (水)

---

#### ● ゼミ2「劇場法に沿って、劇場ホールの仕事进行再考してみる」

講師：津村 卓

自己紹介で言えなかったことを改めて紹介してもらった後に、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律の前文の中からピックアップした内容を基に、劇場・ホールが担うミッションやこれからの役割を考えてみることをおこなった。また、北九州芸術劇場が実施している劇場と街(多様な市民そして商店街から地元企業)が向き合う事業を紹介することで、芸術文化が持つ力と効果を再度考えてみた。



● ゼミ3 「ワークショップを経験して  
コンサートを企画から創ってみる」

講師：宮本妥子 | パーカッショニスト  
後藤ゆり子 | パーカッショニスト  
楠瀬寿賀子 | 音楽企画コーディネーター

宮本妥子さんと後藤ゆり子さんの演奏を聴いてもらったあと、グループに分かれ色をはじめいくつかの要素から詩を作ってもらい、それに合わせ打楽器を使ってグループごとに演奏してもらおうワークショップをおこなった。打楽器ならではの参加性の高いワークショップだが、参加者全員の想像力を喚起するクオリティの高いプログラムであった。

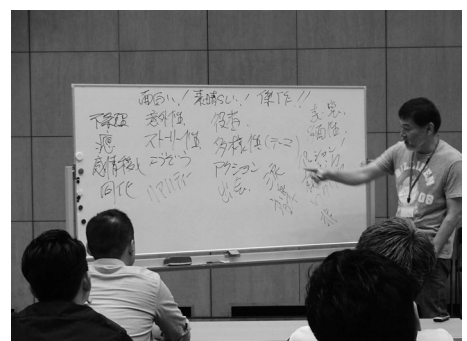
次に楠瀬さんからコンサート企画を立てるための考え方とノウハウを、項目ごとに分かりやすく伝えてもらったあと、アーティストにインタビューを行う事で、アーティストが何を考えてワークショップやコンサートに臨んでいるかをお聞きし、グループに分かれてコンサートの企画を考えてもらった。時間の都合で企画を発表するところまで出来なかったが、参加者それぞれが持ち帰って、それぞれのホールで素晴らしい企画のコンサートを作ってくれればと期待している。



第3日 7月5日 (木)

● ゼミ4 「ワークショップを経験して、  
クリエイションと公演の企画を考える 演劇編」  
講師：内藤裕敬 | 劇作家・演出家、南河内万歳一座座長  
津村 卓

初めに内藤裕敬さんから、頭で考えている事と体の反応は共有しないと「開いて、閉じて」の動きを行うところからスタート。次に演劇とは何か。面白い作品とは何か。良い作品とは何か等を参加者と意見を交わしながら考えていく。もちろん地域や劇場・ホールの環境や状況においての違いはあるが、アーティストたちは何に向かって作品を創り上げているのか、また演劇が持つ潜在的な力を劇場・ホールがどのような形で提供していくのかを考えるのに、参考になる講義だったと思う。そのあと2グループに分かれ「屋上」という戯曲の一部を使い、演劇を行う上で必要な、見えないモノを見ること、想像することを意識したワークショップをおこなった。演劇が持つ力とは何であるかの一部ではあるが、理解してくれていれば幸いだ。最後に短い時間ではあったが、5グループに分かれ地域において演劇の作品創りについて企画してもらった。



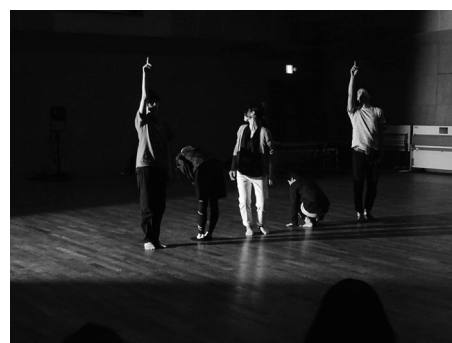


● ゼミ5「ワークショップを経験して、クリエイションと公演  
を企画から創ってみる コンテンポラリーダンス編」

講師：セレノグラフィカ（隅地菜歩、阿比留修一）  
|ダンサー・コレオグラファー  
佐東範一 | JCDN 代表

セレノグラフィカのワークショップを体感することから始まった。初日に北村成美さんのワークショップを経験しているが、目的の違いによってプログラムの構成が違うという事を感じて貰えただろうか。ワークショップのあとグループに分かれて作品を創る「ダンス作品模擬創作体験」として各グループでダンサーは全員だが、振付家・音響家・照明家・衣装家・美術家・メイクアップアーティストの仕事を各グループのなかで役割分担をして貰い、3分から5分の作品創りに挑戦してもらった。また使用曲もパルティータやテネシーワルツ他5曲から選ぶことと、前半のワークショップで行った動きを取り入れることで創作された作品はそれぞれの味のある考えられた作品になった。作品発表後佐東さんを中心に、フィードバックを基に作品をプロデュースする話をして貰った。

作品を創作していくのには多くのスタッフのデザインと力が必要で、それらが良い形でコラボレーションすることが重要であり、それをまとめる制作力が大切なことであることを理解して頂けたと思う。



第4日 7月6日（金）

● ゼミ6「フィードバック 芸術が果たせること、  
私たちが出来ること」

講師：津村 卓

3日間のプログラムを受けてもらい、ワークショップ他において感じたこと、また参加者の皆さんの劇場・ホールの状況やミッションと本人たちのこれまでの経験と現在の仕事としての立ち位置から、これからの劇場・ホールの方向性や自分たちの仕事をどのように発展させていけばよいか等を一人一人から話して貰った。同じワークショップや講義を受けていても、その違いで受け取り方や、今後の方向性が違う事を感じて頂ければと思う。



### 3. 自主事業（音楽）コース 総評・ゼミ記録

コーディネーター 中村 透

#### 1 自主事業（音楽）コースのテーマとその設定理由

コーディネーター（以下筆者）が設定したテーマとその理由は、ゼミに先立って参加者へ送った次のメッセージに示されている。

「公共ホールで音楽プログラムを企画・制作するときに、私たちはしばしば音楽の美と感動を自明のこととしています。しかし、その音楽の材質や内容、スタイル、さらにはアーティストの演奏技能や人間性という“文化コード”が、スタッフにもオーディエンス、地域の市民にも共有されなければ、インタラクティブな音楽文化の還流は成り立ちません。

自主事業（音楽）コースでは、アーティストとともに足元の文化資源を発掘し、編集し、創造するという実践的体験を通して、この文化コードの共有へと歩みます。参加されるゼミ生は、足元にある興味深い文化資源、すなわち物語・伝説、詩文、写真などを掘り起こし持参して下さい。ゼミでそれらを新たな文脈に置き換えて、音楽プログラムを企画します。」

「文化コードの共有」とは、“有名アーティストのブランド”に触れるといった類の消極的鑑賞ではなく、作品、演奏スタイル、周辺情報への理解を伴った深い鑑賞姿勢、積極的な参加姿勢のオーディエンスを増やすことを意味する。

こうした市民層の増があってこそ、ホールとその地域にインタラクティブな音楽文化の還流が湧き起こることを期待したいのである。

いま、地域の音楽文化の多様な資源は、相互に触れ合うことがないまま、断裂した状態で併存している。そうしたなかで、公立文化施設が発信する文化芸術の“公共性”とは、一方で深い鑑賞姿勢のオーディエンスを養成しつつも、他方で足元にある音楽文化の多様な資源・人材を発掘して編集し、音楽創造の協働をもって新たな文化コミュニティの構築を目指すことにあると考える。

本ゼミではさらに、卓越した技能をもつアーティストが、高いステージから鑑賞者・観客として市民を見おろすのではなく、市民の試みる音楽創造へ協働者として参加してもらい、アーティストと地域社会とのインターフェースに新たな展望を拓いてもらうことも目的とした。

本コースのゼミ生は15名（内1名は土砂災害のため欠席）で、年齢、経験、所属するホールの組織形態や事業規模、また被雇用の条件も多様であるだけでなく、自主事業（音楽）コースへの参加目的もまたさまざまであった。

4日間、9回のゼミを通して筆者が執ったコースの方向性は、ゼミ生が、市民との共同企画と実践を擬似的に経験すること、すなわち音楽による協働の創造活動をアーティストとともに試行し、その実践的体験をバネに、所属するホールでの音楽企画の芽を紡ぎだすことにあった。

以上のテーマによるゼミ全体の流れが次の図である。横書き部分はゼミの内容、縦書き部分はその目的である。

### 3. 自主事業（音楽）コース 総評・ゼミ記録

自主事業（音楽）コース・ゼミの流れ

<p>序Ⅰ：コミュニティ・ワークショップと概論ゼミ / (ゼミ1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉／声、動き、うた⇒音楽のコミュニティ (WS)</li> <li>・プログラム・オリエンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出会い＝NEW Communityの開始</li> <li>・音楽コースの目指す方向共有</li> </ul>
<p>Ⅱ：企画に向けての試行的創造 / (ゼミ2～5)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <p>[素材を]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掘る</li> <li>↓</li> <li>・編集する</li> <li>↓</li> <li>・創る／表現する</li> <li>↓</li> <li>・リフレクション</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⇒企画の芽出し</div> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>招聘講師3名</p> <p>* ミッション、即興性を有する音楽家 洋楽器、邦楽器</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる共同作業と実践</li> <li>・持ち寄った素材から音楽創造</li> <li>・アーティストと支援参加と相互作用</li> </ul>
<p>Ⅲ：近江の歴史文化探訪 / (フィールド研究 ゼミ6,7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近江の古代史と史跡</li> </ul> <p style="text-align: right;">招聘講師1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足元を掘る体験</li> </ul>
<p>Ⅳ：企画制作の方法 / (ゼミ / (ゼミ8,9))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ1～7を活かしながら</li> <li>・目的とミッション</li> <li>・企画プランニング (・広報 ・組織 ・予算)</li> </ul>	<p>企画制作の相互検証</p>

#### 2 各ゼミの内容と経過

ゼミ1：初日の初対面ゼミ生の連帯意識を醸成するために、声と身体、無意味言語によるコミュニケーション・プレイ、簡易な手持ち楽器によるサウンド・プレイ、マオリ民族の伝説による三声の即興コーラスなど、一連のコミュニティ・ワークショップでゼミを開始した。

具体的なワークショップの手順は、声、ことば、身体による、①集合と離散（呼びかけ声と仲間づくり）→②同時自己紹介→③ことばのシェアリング（対人関係から集団共同へ）、サウンドと音楽による、④サウンドを受け渡す／聴く→⑤語る・聞く、想像する、歌い交わす/マオリの歌による三声のコーラスへと連続して展開した。

これら偶発性、即興性による他者関係の発見型ワークショップは、いずれも、創造的な芸術行動におけるコミュニケーションが、「教える」「命令する」「売り込む」「説得する」といった

類の言語とは異なり、我／彼の主体的な発想と音楽行動をリスペクトしながら、「ともに考え、創りあげる」という双方向型のコミュニケーションであることを感じるための音楽創造の予備体験となることを狙いとした。

(以上の試みは)全体を通して、後続するゼミ2以降の全体及びグループでのワークショップを動機づける効果があったと判断できる。



ゼミ2～4：「企画に向けての試行的創造」は、ゼミ生が持ち寄った地域のモノ・コト・ヒトに因む素材を披露。つづいて、二つのグループにわかれてグループごとにそれらの素材をイメージ的な音楽シーンに編集し、ヴァイオリニスト北島佳奈氏、ピアニスト加地美秀子氏、尺八奏者松本太郎氏とともに音楽プログラムを創造するワークショップを試行した。

そのプロセスは、初めに演奏を聴いて各楽器の特徴的な奏法を学んだうえで、

①ゼミ生が掘り起こしてきた地域の文化資源を相互に照らし合わせ、共通する素材ごとのグループに分かれる →②サウンド、リズムメロディー等の音楽イメージに編集し、音楽シナリオを共同制作 →③シナリオに描かれたシーンを抽出し、楽器の多様なサウンドや既成曲と連動させた音楽パフォーマンスへの展開を試みる →④③で試みた音楽パフォーマンスをグループごとに作品化し、試演を行って相互に評価し合う、という経過であった。

一連の過程では、演奏家もまたゼミ生との協働によるイコール・パートナーとしてこの作業に参加してもらった。意外だったのは、ゼミ生、アーティストともに、この種の協働経験が“初めて”の経験であり、終了後の共感的な達成感に新鮮な発見があったと表明されたことである。



ゼミ5では、以上のプロセスの記録映像を見ながら、その作業過程を振り返った。各グループ7人編成+アーティストで、ひとつのグループ(ヴァイオリン班)は、各自が持ち寄った伝説、

街の歴史等の素材を連続的に繋ぎ合わせ、ゼミ生自身のパフォーマンス、楽器サウンドをヴァイオリンの既成曲演奏とピアノ即興に織り交ぜたミュージック・シーンを展開した。レ音、ラ音を基本モチーフとして要所に配して統一感を醸し出した。

一方のグループ（尺八班）は、各自の素材を潜在化させながら点在させ、一つの詩（谷川俊太郎「生きる」）を要所に配して言葉と音楽との統一的なミュージック・シーンの創作に成功した。

ゼミ生の振り返りでは、「時代をたどっていく、皆の思いをひとつにつなげることができた」「（ゼミ生個々に）遠慮などなく、それぞれが役割を見つけて参加できた」という協働への発見、「同じ曲に対して、それぞれのイメージが違ったところがおもしろかった」「アーティストの演奏からイメージがふくらんだ」、「達成感があった」など、音楽創造への喜びが語られた。

終了後アンケートには「ワークショップ、創作の体験を通して、参加する市民の立場を体験することができ、新鮮でした。また、全国から集まった仲間との出会いは一生の財産になります」とあり、ステージラボのもう一つの目的、ゼミ生同士のネットワークが確かに芽吹いた時間でもあった。

市民参加による芸術創造の意味は、「音楽は、本来誰もが音楽をすることにその存在意義がある（Ch.スモール）」、「（音楽）表現は他者性を必要とする。言語では決して伝わらない、しかし伝えたい、受止めてほしい精神や情感、衝動があるからこそ、（音楽）表現は存在してきた／存在する（筆者）」にあることを確認しあった。



ゼミ6、7：大津市歴史博物館と三井寺を訪問し、松浦俊和氏（元歴史博物館館長）を講師に「近江の歴史文化を訪ねて」のレクチャーと見学を行った。モノ、コト、ヒトに像を結ばれた近江の記憶／文化資源を探访し、もってゼミ生がわが足元を掘るためのフィールド・ワークを経験するためである。テーマは、近江における渡来人のもたらした文化と、壬申の乱であった。

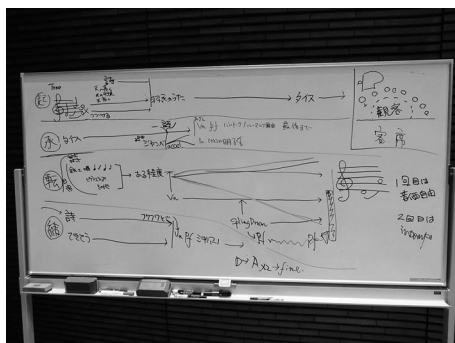
近年、公共ホール・スタッフは地域の文化資源に触れる機会が乏しく、それらを音楽企画に活かす発想が乏しい。また、地域の人々との多面的な触れ合いによるネットワークを拡げるための発想を持つことを目的とした。



ゼミ8、9：ゼミ2～ゼミ7までの経験を踏まえ、本コースのテーマ＜足元の音楽文化資源の発掘、編集、創造＞をコンセプトとし、「地域素材による市民とアーティストによる音楽を中心とした舞台創造または創造的パフォーマンス」の企画書を、ゼミ生個々が独自のテーマにもとづいて作成した。

企画作成にあたってあらかじめ示した筆者が提示した条件は、以下の5つを設定することである。

1. 表現の形式と対象観客：なにを
2. 選定するアーティストのジャンルと人物像：だれと／どのような音楽家と
3. 対象とする参加市民：だれと／どの世代の市民と
4. 市民とアーティストとの協働方法：どのように繋ぐ
5. 期待する地域への波及効果：なぜ／だれのために



ゼミ生から提出された企画のテーマと概要は以下である。

日本遺産「北前船をうたう！」：合唱を通じた児島・玉島から北前船を、中へ、外へ発信し、生活文化・芸術文化の発展に質する(S.H)。

\*音楽劇「鉄の街、日本のモノづくりの街 八幡」：WSを通して創造し、新しいものを作り、語り歌い継ぐ(O.Y)。

東松山の伝承の音～坂上田村麻呂の悪竜退治伝説～：声楽、交響楽団による演奏、朗読、ボディーパーカッションによって表現する市民による市民のための伝承(I.T)。

\*このまちが好きなんです！！プロジェクト：10～20代対象、地元のアーティストと地域文化、産業との交差による舞台作品づくり(Y.S)。

萱野三平重実を知る：歴史人物を題材に、和太鼓、劇団、合唱、合奏による総合音楽劇の創造(Y.Y)。

ギネス世界記録に挑戦！25万人でつくる輪唱の鉄腕アトム：23万人の地域市民とアーティスト、歌唱指導者による輪唱(Y.M)。

くにたち～今、そしてこれから～アーティストと一緒に舞台創造～：7回のワークショップを行いながら、発見した“くにたち”を音楽舞台作品に(T.K)。

アーティストと市民が一緒に創る事業：地域の伝承をもとに、アーティストと子どもを含む市民とが手を携えて長期的に音楽舞台を作る(S.H)。

\*モノづくりのまちで作られたモノで音楽会：子どもを対象に、機械工場のまち東大阪の名産”ネジ“から、楽器を作る。その楽器による音楽会(Y.A)。

親子のためのやさしいオペラ体験：声だし、楽器の学び、オペラストーリー、オリジナル作品づくりを踏まえた親子でのオペラ発表体験(K.A)。

吹奏楽団のテーマ曲を創ろう！：子どもためのワークショップで、吹奏楽団とともにテーマ曲を創り発表する(Y.A)。

\*秩父観音霊場めぐり：各札所に伝承されるご詠歌や物語を題材に、市民とアーティストが長期に交流しながら協働し音楽朗読劇を創作する(T.M)。

とよなかの過去・現在・未来「まちのおと」：「まち」を構成するモノを発掘し、音楽に再編成することにより「まち」の新たな伝承をつくり、未来へと繋げていく(I.A)。

古代の四日市に触れる：古代四日市の遺跡を市民と四日市出身のアーティストがともに歴史体験をし、音楽パフォーマンスを創作する(A.M)。

全体として、芽出しに近いラフ・プランだが、なかには具体的な制作過程が綿密にスケジュールリングされた企画もあり(\*印)、実践への試行を期待したい。

なかでも、とくに地域社会との連携作業が具体的な企画案を以下に引用する。

事業名“このまちが好きなんです！！プロジェクト” 矢吹修一

目的	文化芸術を通し、実演芸術家と市民の協働で、地域資源をリサーチし、表現方法を考え、作品を創り、発信する。これらを通し、自分たちのまちの魅力を再発見し、このまちで生きる誇りと自信を市民に抱いてもらうことを目的に実施する。	
アーティスト	地元の若手アーティスト	
対象	10代～20代の若者	
プロセス1	まちあるき	
↓	市民と実演芸術家とがまちに出てリサーチする。「人」「建物」「食」「歴史」「産業」「文化」など。 *まちづくり団体や、商店街の方々に協力してもらい、話を聞いたり、課題や希望なども伺う。	
プロセス2	ミーティング	
↓	・見つけた資源を共有し、どの資源を生かすか決める。 ・表現方法、発信方法も市民皆さんのアイデアから創出する。*テーマ、モチーフを決める。	
プロセス3	作品創り	
↓	・音楽と身体表現、美術も含め、それぞれのジャンルのアーティストを講師に招き、市民と制作。 ・市内の高専、大学と連携し、舞台装置なども創る。	
プロセス4	関連事業	
↓	・まちへ出てショート・パフォーマンスの実施。 ・テーマ、モチーフを元に飲食店と協力し、オリジナル・メニューを開発し、そのメニューのレシピを使ったワークショップを実施。 ・プロモーション用のショートムービー作成、ワークショップ。→特設youtubeチャンネル開設。	
プロセス5	公演	
↓	・劇場での公演を実施。*有料公演	
プロセス6	ツアー公演へ	
	・市内にある他の会館を活用し、公演を実施。*インナースタッフのスキルアップも含める。 *遠隔地への支援	

#### 4 まとめと展望

地域の音楽文化の多様な資源は、相互に触れ合うことがないまま、断裂した状態で併存していると先述したが、本コースのテーマ設定には、次のよう筆者の地方社会の音楽文化への捉えがある。

- ・ 今日政治・経済・文化は東京を中心に一極化し、いまや地方社会がローカルという辺境に位置づけられて文化芸術の受容的消費地に追いやられる傾向にあること。
- ・ 一方で、サブ・カルチャー、ハイ・カルチャーのプロまたはセミプロの音楽家が、地域の多様な生活シーンでクロス・カルチャー的な文化活動を行うことが常態化してきたこと。
- ・ コーラス、吹奏楽等のクラシック系音楽は、学校の部活、それを基盤としたOB、OG等のコミュニティ・サークルに閉ざされる傾向が強いこと。
- ・ 地域の伝統文化に付随する音楽は、民俗芸能や祭事を通して主体的に伝承されている実態があること。
- ・ さらに、近年は地縁コミュニティによらない、特定の志向性や目的をもった市民の文化コミュニティ活動が活発になってきていること。

平成29年に改正された文化芸術基本法は、＜文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を本法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとするものである＞と謳っている。

地域に格差なく優れた音楽芸術に多くの市民が接することのできる機会の必要性は論を俟たないが、同時に、多様な角度から市民が音楽行動に参加できる牽引役としての公立ホールの役割を期待したい。



## 4. 共通プログラム ゼミ記録

### 共通プログラム「合唱の愉しみ～人はなぜ歌声を和することに喜びを感じるのか？」

#### 1. 講師

中村 透 | 自主事業(音楽)コース・コーディネーター

本山 秀毅 | 大阪音楽大学学長、びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者

村島美也子 | びわ湖ホール事業部プロデューサー

栗原 未和 | ソプラノ歌手、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー

迎 肇聡 | バリトン歌手、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー

#### 2. 概要・目的

即興で歌声を和する文化(合唱・コーラス)は、祭祀や集団祝祭のツールとして、南太平洋、東南アジア、アフリカなど世界各地に古くから存在した。人間誰でもが持っている声には、コミュニティを共感的心理で結びつける力があり、それは時には呪術的な力とも考えられていた。

このプログラムでは、非西洋も含め、世界の歌声を和する文化の一端を紹介し、また、実際に声を出して、シンプルなメロディーの重なりが合唱に発展する過程を体験する中から、人はなぜ歌声を和することに喜びを感じるのか考えてみることを目的とした。

併せて、全国で唯一の公共ホール専属声楽家集団であるびわ湖ホール声楽アンサンブルの組織・活動を紹介した。

#### 3. 内容

初めに、びわ湖ホールの建設計画から現在に至る経過と主な事業、専属の声楽アンサンブルを置くこととなった経緯、その組織・運営等を紹介し、声楽アンサンブルの卒団生であるソロ登録メンバーによる歌唱を聴いていただいた(レハール「メリー・ウィドウ・ワルツ」)。

次に、自主事業(音楽)コースの受講生が初日に取り組んだ、マオリ族の歌を素材とした即興コーラス・ワークショップの成果作品を披露していただき、中村透先生から、インドネシアの伝承音楽に基づく合唱パフォーマンスの映像をご紹介いただきながら、世界に広がる歌声を和する文化についてご解説いただいた。

後半は、本山秀毅先生の指導で、発声の指導と、バーンスタイン「ウォームアップ」の冒頭部分の合唱体験に取り組んだ。発声指導では、頭蓋骨の中に音を響かせるイメージを持つことによって声の響きが豊かになることを実感したほか、半音のさらに1/2の音程を歌い分ける練習や、ハンガリー等で合唱指導に使用されるハンドサインを使用して「ドレミファソラシド」という音階の中で各音が持つ和声的な機能を実感的に感じ取るなど、微妙な音程の差異にまで耳を傾けることを体験し、貴重な学びの時間となった。

合唱体験では、バーンスタイン「ウォームアップ」の冒頭の12小節のフレーズを4つのパートに分けて輪唱した。「耳コピー」を基本にメロディーを覚え、パートごとにタイミングをずらす輪唱によって音とリズムが重なり合唱に発展する経過を体験した。

「合唱の愉しみ」を実感していただくには少し時間が短かく、所期の目的を達成できたかどうかやや心許ないが、3コースの受講生全員が一つになる時間を持つことができた。

## 参加者の属性

コース名	ホール入門	事業入門	自主事業（音楽）	合計
参加者数	21	21	14	56

※参加者申込数57名

### 【内訳】

#### ①都道府県別

	ホール入門	事業入門	自主事業（音楽）	合計
北海道	1			1
青森				
岩手		1		1
宮城				
秋田				
山形				
福島			1	1
茨城	1	2		3
栃木				
群馬		1		1
埼玉			2	2
千葉		1		1
東京	1	1	1	3
神奈川	1			1
新潟				
富山	1			1
石川				
福井				
山梨				
長野	1			1
岐阜				
静岡			1	1
愛知	1	4		5
三重		1	1	2
滋賀	3	2		5
京都				
大阪	3	1	3	7
兵庫	2	2	1	5
奈良				
和歌山				
鳥取	1	2		3
島根	2			2
岡山			2	2
広島		1	1	2
山口		1		1
徳島				
香川				
愛媛				
高知				
福岡	3		1	4
佐賀				
長崎				
熊本		1		1
大分				
宮崎				
鹿児島				
沖縄				

#### ②採用形態別

	ホール入門	事業入門	自主事業（音楽）	合計
地方公共団体職員（財団への派遣・出向を含む）	5	3	2	10
施設管理団体（財団・NPO法人等）採用職員	16	18	10	44
その他			2	2

#### ③性別

性別	ホール入門	事業入門	自主事業（音楽）	合計
男	6	9	7	22
女	15	12	7	34

#### ④年代別

年齢	ホール入門	事業入門	自主事業（音楽）	合計
20代	13	6	3	22
30代	5	11	7	23
40代	3	4	2	9
50代以上			2	2

## 参加者名簿 1. ホール入門コース

01.北海道	くさかしゅんた 日下 舜太	公益財団法人 札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部 事業課事業係	札幌コンサートホールKitara 開館年 1997 年 大ホール 2008席/1920㎡ 小ホール 453席/610㎡
	No. 1 〒 064-8649 札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
08.茨城県	こくぼ ひでみ 小久保 未望	小美玉市 市民生活部 生活文化課 主任	小美玉市小川文化センター (アビオス) 開館年 1982 年 大ホール 1200席 小ホール 300席/170㎡
	No. 2 〒 311-3423 小美玉市小川1225 TEL 0299-58-0921 / FAX 0299-58-0923		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
13.東京都	よこやま みちか 横山 真華	公益財団法人 としま未来文化財団 みらい文化課 プランセクション	プランセクションは該当施設なし 開館年 - 年
	No. 3 〒 171-0022 豊島区南池袋2丁目34番5号藤和第2ビル2階 TEL 03-3590-7118 / FAX 03-3984-0865		自主事業 - 事業予算 -
14.神奈川県	たかた みしお 高田 美汐	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	横浜市民ギャラリーあざみ野 開館年 2005 年 展示室 1 324㎡ 展示室 2 286㎡ アトリエ 142㎡
	No. 4 〒 225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3アートフォーラムあざみ野内 TEL 045-910-5656 / FAX 045-910-5674		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
16.富山県	しじま さゆり 四十万 さゆり	公益財団法人 富山県文化振興財団 新川文化ホール ホール担当 主事	新川文化ホール 開館年 1994 年 大ホール 1186席 小ホール 297席 展示ホール 703㎡
	No. 5 〒 937-0853 魚津市宮津110 TEL 0765-23-1123 / FAX 0765-23-0534		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
20.長野県	ばば よしかず 馬場 喜一	上田市 政策企画部上田市交流文化芸術センター (サントミュージゼ)	上田市交流文化芸術センター (サントミュージゼ) 開館年 2014 年 大ホール 1530席 小ホール 320席 大スタジオ 250㎡
	No. 6 〒 386-0025 上田市天神3-15-15 TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	きたざわ けい 北澤 圭	公益財団法人 かすがい市民文化財団 事業推進グループ スタッフ	文化フォーラム春日井 (春日井市文芸館) / 春日井市民会館 開館年 1966 年 春日井市民会館 1022席/2366㎡ 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール 198席/274㎡
	No. 7 〒 486-0844 春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
25.滋賀県	よしむら きみお 吉村 公男	甲賀市 教育委員会事務局文化スポーツ振興課文化振興係	あいこうか市民ホール 開館年 1983 年 甲賀市あいこうか市民ホール 772席/980㎡
	No. 8 〒 528-0005 甲賀市水口町水口5633 TEL 0748-62-2626 / FAX 0748-62-2625		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

25.滋賀県	さとう いおり	公益財団法人 東近江市地域振興事業団 舞台	東近江市立八日市文化芸術会館
	佐藤 意織		開館年 1981 年 八日市文化芸術会館 ホール 804席
No.	〒 527-0039 東近江市青葉町1番50号 TEL 0748-23-6862 / FAX 0748-23-6863		— — 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
25.滋賀県	なかがわ りゅういち	公益財団法人 あいの土山文化体育振興会 主事	あいの土山文化ホール
	中川 龍一		開館年 1991 年 あいの土山文化ホール 441席/411.2㎡
No.	〒 528-0211 甲賀市土山町北土山2 2 2 2-2 TEL 0748-66-1602 / FAX 0748-66-1603		— — 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
27.大阪府	すぎもと ゆか	枚方市 文化振興課 係員	(仮称) 枚方市総合文化芸術センター
	杉本 裕香		開館年 2021 年 (予定) 大ホール 1,468席/2,018㎡
No.	〒 573-8666 枚方市大垣内町2丁目1-20 TEL 072-841-1410 / FAX 072-841-1278		小ホール 325席/576㎡ イベントホール 最大200席/191㎡ 自主事業 事業予算
27.大阪府	まさき さおり	公益財団法人堺市文化振興財団 堺市民芸術文化ホール (フェニーチェ堺) 準備室	堺市民芸術文化ホール (フェニーチェ堺) ※2019年秋開館
	正木 沙央莉		開館年 2019 年 大ホール 2000席/約4455㎡
No.	〒 590-0946 堺市堺区熊野町東4丁4-20 林ビル6階 TEL 072-228-0440 / FAX 072-232-0110		小ホール 312席/約695㎡ 大スタジオ 150席/290㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
27.大阪府	はった ゆか	株式会社 共立 事業企画部門担当者	東大阪市文化創造館 (2019年9月開館予定)
	八田 祐薫		開館年 2019 年 大ホール 1500席/未確定㎡
No.	〒 577-0801 東大阪市小阪3丁目2-29城戸八戸ノ里ビル5階D TEL 06-4307-5772 / FAX 06-4307-5778		小ホール 300席/未確定㎡ — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	はに まりこ	公益財団法人 神戸市民文化振興財団 事業 地域担当	神戸アートプレッジセンター
	羽仁 真理子		開館年 1996 年 KAVCホール 232席/303㎡
No.	〒 652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-4 TEL 078-512-5500 / FAX 078-512-5356		KAVCシアター 94席/129㎡ KAVCギャラリー 148㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
28.兵庫県	よしもと なおか	公益財団法人 いたみ文化・スポーツ財団 伊丹市立演劇ホール 事業担当	伊丹市立演劇ホール (アイホール)
	吉本 尚加		開館年 1988 年 イベントホール 最大300席/約357㎡
No.	〒 664-0846 伊丹市伊丹2丁目4番1号 TEL 072-782-2000 / FAX 072-782-8880		カルチャールームA 最大50席/約100㎡ カルチャールームB 最大50席/約90㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
31.鳥取県	たなか さき	公益財団法人 鳥取県文化振興財団 企画制作部 制作・学芸課 主事	とりぎん文化会館
	田中 早紀		開館年 1993 年 梨花ホール 2000席/2100㎡
No.	〒 680-0017 鳥取市尚徳町1 0 1 - 5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		小ホール 500席/480㎡ — 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 f. 1億円以上

32.島根県	えずみ ももこ 江角 ももこ	公益財団法人 しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場文化事業課 主事	島根県芸術文化センター いわみ芸術劇場 (グラントワ)
	No. 17	〒 698-0022 益田市有明町5番15号 TEL 0856-31-1860 / FAX 0856-31-1884	開館年 2005 年 大ホール 1500席/3655.1㎡ 小ホール 400席/1289.6㎡ — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
32.島根県	こうはら ゆう 香原 優	公益財団法人 しまね文化振興財団 文化事業課 主事	島根県民会館
	No. 18	〒 690-0887 松江市殿町158 TEL 0852-22-5508 / FAX 0852-24-0109	開館年 1968 年 大ホール 1537席/1540㎡ 中ホール 576席/686㎡ 展示ホール 226.6㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	あまだつ のぞみ 天達 希	公益財団法人 大野城まどかぴあ 文化芸術振興課	大野城まどかぴあ
	No. 19	〒 816-0934 大野城市曙町二丁目3番1号 TEL 092-586-4040 / FAX 092-586-4021	開館年 1996 年 大ホール 783席 小ホール 118席 多目的ホール 300席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
40.福岡県	やますみ きょうこ 山住 恭子	公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 舞台事業課 事業係長	北九州芸術劇場
	No. 20	〒 803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633	開館年 2003 年 大ホール 1269席/8026㎡ 中劇場 700席/5496㎡ 小劇場 96~216席/1285㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	やまうら まり 山浦 真理	特定非営利活動法人 アートマネジメントセンター福岡 事業担当	福岡県立ももち文化センター
	No. 21	〒 810-0041 福岡市中央区大名1-14-28-405 TEL 092-752-8880 / FAX 092-752-8682	開館年 1972 年 大ホール 800席/1100㎡ 小ホール (大会議室) 150席/225㎡ 特別会議室 60席/100㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

## 参加者名簿 2. 事業入門コース

03.岩手県	やぎ えり 八木 絵里	特定非営利活動法人 いわてアートサポートセンター もりおか町家物語館運営ディレクター	もりおか町家物語館 開館年 2014 年 浜藤ホール 100席/156.33㎡
	No. 1 〒 020-0827 盛岡市鉾屋町10-8 TEL 019-654-2911 / FAX 019-654-2913		— — 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
08.茨城県	ながい ちほ 永井 千穂	小美玉市 市民生活部 生活文化課 主事	小美玉市四季文化館 (みの〜れ) 開館年 2002 年 大ホール 600席 小ホール 300席 練習室1 50.37㎡
	No. 2 〒 319-0132 小美玉市部室1069 TEL 0299-48-4466 / FAX 0299-48-4467		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
08.茨城県	なかの まさき 中野 将生	公益財団法人 日立市民科学文化財団 交流事業課 主事	日立シビックセンター 開館年 1990 年 音楽ホール 825席/780㎡ 多用途ホール 200席/256㎡
	No. 3 〒 317-0073 日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7711 / FAX 0294-24-7970		— 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
10.群馬県	あらい ゆうじ 新井 悠士	公益財団法人 桐生市スポーツ文化事業団 文化事業部文化事業化文化振興係	桐生市市民文化会館 開館年 1997 年 シルクホール 1527席/1946.42㎡ 小ホール 276席/757.3㎡
	No. 4 〒 376-0024 桐生市織姫町2-5 TEL 0277-40-1500 / FAX 0277-46-1126		— 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
12.千葉県	いしい りょういち 石井 良一	公益財団法人 千葉市文化振興財団 アーツステーション室 主任主事	千葉市文化センター 開館年 1988 年 アートホール 497席 市民サロン 270㎡ セミナー室 140席/195㎡
	No. 5 〒 260-0013 千葉市中央区中央2-5-1 TEL 043-221-2411 / FAX 043-224-8231		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
13.東京都	もろおか あやこ 師岡 斐子	公益財団法人 としま未来文化財団 制作	あうるすぽっと【豊島区立舞台芸術交流センター】 開館年 2007 年 あうるすぽっと 301席/約954㎡
	No. 6 〒 1700013 豊島区東池袋4-5-2ライズライズアリーナビル2・3階 TEL 03-5391-0751 / FAX 03-5391-0752		— — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
23.愛知県	かとう とおる 加藤 徹	公益財団法人 豊田市文化振興財団 文化部文化事業課・主査	豊田市民文化会館 開館年 1981 年 大ホール 1708席/14749㎡ 小ホール 436席/2476㎡
	No. 7 〒 471-0035 豊田市小坂町12-100 TEL 0565-31-8804 / FAX 0565-35-4801		— — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
23.愛知県	やなせ ゆみ 柳瀬 祐実	長久手市 事業係・主事	長久手市文化の家 開館年 1998 年 森のホール 711席/1300㎡ 風のホール 292席/900㎡ 光のホール 80席/100㎡
	No. 8 〒 480-1166 長久手市野田農201番地 TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

23.愛知県	とりい ちなみ 鳥居 知奈美	幸田町文化振興協会 事業グループ	幸田町民会館 開館年 1996 年 さくらホール 1004席 つばきホール 400席 あじさいホール 200席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 9	〒 444-0103 額田郡幸田町大字大草字丸山60番地 TEL 0564-63-1111 / FAX 0564-63-5186	

23.愛知県	やました げん 山下 玄	公益財団法人 かすがい市民文化財団 施設サービスグループ スタッフ	文化フォーラム春日井（春日井市文芸館）／春日井市民会館 開館年 1966 年 春日井市民会館 1022席/2366㎡ 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール 198席/274㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 10	〒 486-0844 春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213	

24.三重県	つつみ かな 堤 佳奈	公益財団法人 三重県文化振興事業団 三重県文化会館 事業課演劇係	三重県文化会館 開館年 1994 年 大ホール 1903席/舞台700㎡ 中ホール 968席/舞台900㎡ 小ホール 285席/240㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 11	〒 514-0061 津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1100 / FAX 059-233-1106	

25.滋賀県	ふじえ いずみ 藤江 いずみ	甲賀市 甲賀市教育委員会事務局文化スポーツ振興課文化振興係	甲賀市あいこうか市民ホール 開館年 1983 年 甲賀市あいこうか市民ホール 772席/980㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
	No. 12	〒 528-0005 甲賀市水口町水口5633番地 TEL 0748-62-2626 / FAX 0748-62-2625	

25.滋賀県	くにもと ひとみ 国本 瞳	公益財団法人 東近江市地域振興事業団 舞台	東近江市立八日市文化芸術会館 開館年 1981 年 八日市文化芸術会館 ホール 804席 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
	No. 13	〒 527-0039 東近江市青葉町1番50号 TEL 0748-23-6862 / FAX 0748-23-6863	

27.大阪府	すぎまさ しゅうじ 杉政 周之	公益財団法人 茨木市文化振興財団 文化事業係	茨木市市民総合センター（愛称：クリエイトセンター） 開館年 1989 年 クリエイトセンター・センターホール 426席/744.77㎡ クリエイトセンター・多目的ホール（電動移動席） 165席/228.98㎡ 福祉文化会館・文化ホール 345席/409.5㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
	No. 14	〒 567-0888 茨木市駅前四丁目6番16号 TEL 072-625-3055 / FAX 072-625-3036	

28.兵庫県	とくら ゆきこ 土倉 征子	公益財団法人 いたみ文化・スポーツ財団 伊丹市立演劇ホール 事業担当	伊丹市立演劇ホール 開館年 1988 年 イベントホール 最大300席/357㎡ カルチャールームA 最大50席/100㎡ カルチャールームB 最大50席/90㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
	No. 15	〒 664-0846 伊丹市伊丹2丁目4番1号 TEL 072-782-2000 / FAX 072-782-8880	

28.兵庫県	いしだ なおこ 石田 尚子	NPO法人 コミュニティアートセンタープラッツ	豊岡市民プラザ 開館年 2004 年 ほっとステージ 294席/381㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 16	〒 668-0031 豊岡市大手町4-5 アイティ7階 豊岡市民プラザ内 TEL 0796-34-6078 / FAX 0796-24-3004	

31.鳥取県	ありさわ さとし 有澤 智志	公益財団法人 鳥取県文化振興財団 総務部総務課 主任	鳥取県立県民文化会館（とりぎん文化会館）
			開館年 1993 年 梨花ホール 2000席/2100㎡
No. 17	〒 680-0017 鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		小ホール 500席/480㎡
			— 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 f. 1億円以上
31.鳥取県	にしむら つとむ 西村 努	公益財団法人 とっとりコンベンションビューロー サービス課 主事	米子コンベンションセンター
			開館年 1998 年 多目的ホール 2000席/1879㎡
No. 18	〒 683-0043 米子市末広町294 TEL 0859-35-8111 / FAX 0859-39-0700		小ホール 300席/309㎡
			国際会議室 360席/534㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
34.広島県	うまやはら さとし 馬屋原 哲司	株式会社 暮らしサポートみよし 業務・企画	三次市民ホール きりり
			開館年 2015 年 大ホール 1006席
No. 19	〒 728-0021 三次市三次町111-1 TEL 0824-62-2222 / FAX 0824-62-2230		サロンホール 120席/160㎡
			— 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
35.山口県	さわだ ちかこ 澤田 千家子	一般財団法人 宇部市文化創造財団 企画課	宇部市渡辺翁記念会館、宇部市文化会館
			開館年 ※下記カッコ内 宇部市渡辺翁記念会館（開館1937年） 1353席/2629㎡
No. 20	〒 755-0041 宇部市朝日町8番1号 TEL 0836-35-3355 / FAX 0836-31-7306		宇部市文化会館文化ホール（開館1979年） 501席/1476㎡
			— 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
43.熊本県	はまの しおり 濱野 史織	公益財団法人 熊本県立劇場 事業グループ 主任	熊本県立劇場
			開館年 1982 年 コンサートホール 1810席/1260㎡
No. 21	〒 862-0971 熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2235 / FAX 096-371-5246		演劇ホール 1172席/780㎡
			— 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上



## 参加者名簿 3. 自主事業（音楽）コース

07.福島県	やぶき しゅういち 矢吹 修一	いわき市 企画制作課・課長	いわき芸術文化交流館アリオス 開館年 2008 年 大ホール 1705席/264.3㎡ 中劇場 687席/140.7㎡ 小劇場 233席/132.9㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 1 〒 970-8026 いわき市平字三崎1番地の6 TEL 0246-22-8111 / FAX 0246-22-8181		
11.埼玉県	いわさき たつや 岩崎 達也	公益財団法人 東松山文化まちづくり公社 総務・文化事業グループ 制作担当	開館年 - 年 - - - 自主事業 - 事業予算 -
	No. 2 〒 355-0017 東松山市松葉町1-2-3 TEL 0493-24-6080 / FAX 0493-24-9909		
11.埼玉県	たかい まみ 高井 真明	秩父宮記念市民会館 秩父宮記念市民会館	秩父宮記念市民会館 開館年 2017 年 大ホールフォレスト 1007 席/830㎡ - - 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 3 〒 368-8686 秩父市熊木町8-15 TEL 0494-24-6000 / FAX 0494-23-2298		
13.東京都	さいとう かおり 斉藤 かおり	公益財団法人 くになち文化・スポーツ振興財団 くになち市民芸術小ホール プロデューサー	くになち市民芸術小ホール 開館年 1987 年 ホール 336席/362㎡ スタジオ 70席/128㎡ - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 4 〒 186-0003 国立市富士見台2-48-1 TEL 042-574-1515 / FAX 042-574-1513		
22.静岡県	やまもと あやの 山本 彩乃	公益財団法人 静岡市文化振興財団 企画運営部 利用サービス担当	静岡市清水文化会館マリナート 開館年 2012 年 (予定) 大ホール 1513席/306㎡ 小ホール 292席/104㎡ - 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 5 〒 424-0823 静岡市清水区島崎町214番 TEL 054-353-8885 / FAX 054-353-8111		
24.三重県	あかい みほ 赤井 美穂	公益財団法人 四日市市文化まちづくり財団 文化振興・国際交流事業部	四日市市文化会館 開館年 1982 年 第1ホール 1786席 第2ホール 593席 - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 6 〒 510-0075 四日市市安島二丁目5-3 TEL 059-354-4501 / FAX 059-354-4093		
27.大阪府	よしまる あやな 吉丸 彩奈	株式会社 共立 事業企画部門担当者	東大阪市文化創造館 (2019年9月開館予定) 開館年 2019 年 大ホール 1500席 小ホール 300 席 - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 7 〒 577-0801 東大阪市小阪3丁目2-29城戸八戸ノ里ビル5階D TEL 06-4307-5772 / FAX 06-4307-5778		
27.大阪府	いのうえ あまね 井上 周	JTB・日本センチュリー・日本管財・大阪共立グループ 事業課 広報プロデューサー	豊中市文化芸術センター 開館年 2017 年 大ホール 1344席/5709㎡ 中ホール (アクア文化ホール) 490席/1245㎡ 小ホール 202席/327㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 8 〒 561-0802 豊中市曽根東町3-7-2 TEL 06-6864-3901 / FAX 06-6863-0191		

27.大阪府	やまぐち ゆい 山口 唯	公益財団法人 箕面市メイプル文化財団 企画総務セクション チーフコーディネーター	グリーンホール（箕面市立市民会館） 開館年 1966 年 グリーンホール（箕面市立市民会館） 986席/978.7㎡
	No. 9	〒 562-0001 箕面市箕面5-11-23 TEL 072-721-2123 / FAX 072-721-0495	— — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
28.兵庫県	よしだ まさと 吉田 匡人	公益財団法人 宝塚市文化財団 事業課 係員	宝塚ベガ・ホール、宝塚ソリオホール、宝塚文化創造館 開館年 ※下記カッコ内 宝塚ベガ・ホール（開館1978年） 372席/1920㎡ 宝塚ソリオホール（開館1993年） 300席/2648㎡ 宝塚文化創造館（開館2011年） 180席/1272㎡
	No. 10	〒 665-0845 宝塚市栄町2丁目1番1号 ソリオ1-3F TEL 0797-85-8844 / FAX 0797-85-8873	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
33.岡山県	まやま ひでき 間山 秀樹	勝央町 教育委員会教育振興部 参事補	勝央文化ホール 開館年 2004 年 勝央文化ホール 666席/2,599.38㎡
	No. 11	〒 709-4316 勝田郡勝央町勝間田200-1 TEL 0868-38-1753 / FAX 0868-38-2580	— — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
33.岡山県	すなみ へいじ 角南 平治	玉島テレビ放送・JFE西日本ジーエス共同事業体 事業推進 特命部長	玉島市民交流センター 開館年 2012 年 湊ホール 360席
	No. 12	〒 713-8121 倉敷市阿賀崎1-10-1 TEL 086-526-1400 / FAX 086-526-1407	— — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
34.広島県	かわさき けんご 川崎 健吾	公益財団法人 広島市文化財団 アステールプラザ 主査	JMSアステールプラザ 開館年 1991 年 大ホール 1204席/320㎡ 中ホール 613席/270㎡ 多目的スタジオ 224席/285㎡
	No. 13	〒 730-0812 広島市中区加古町4-17 TEL 082-244-8000 / FAX 082-246-5808	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
40.福岡県	おおいわ ゆりこ 大岩 有里子	公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール 開館年 1993 年 大ホール 720席 リハーサル室 173㎡ 研修室 50㎡
	No. 14	〒 805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1 響ホール内 TEL 093-663-6661 / FAX 093-662-3028	自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満

## スタッフ一覧

### 1. びわ湖ホール | 共催団体、実施会場

村島美也子 | 事業部 プロデューサー  
西前 悠 | 地域創造部 主幹

- **ホール入門コース**

阿部芽衣

- **事業入門コース**

杉本実生

- **自主事業（音楽）コース**

後藤 萌

### 2. （一財）地域創造 | 主催団体

羽生雄一郎 | 事務局長  
佐倉 誠 | 企画課長  
津村 卓 | プロデューサー

- **ホール入門コース**

三田真由美

- **事業入門コース**

藤原加奈

- **自主事業（音楽）コース**

佐藤良子

- **事務局**

水上俊秀  
栗林礼也  
勝田 全  
高澤佑貴

### 3. キラリふじみ | 次回開催会場

紅林泉好 | （公財）キラリ財団 キラリふじみ副館長

## 開催概要

### 1. 開催日程

平成 30 年 10 月 16 日（水）～10 月 18 日（金）

### 2. 会場

一般財団法人 地域創造  
（東京都港区赤坂 2-9-11）

### 3. 開催体制

主催：一般財団法人 地域創造

### 4. 参加対象者

公立ホール・劇場等の管理職程度の職責を持つ職員（原則として所属の組織形態が株式会社及び有限会社の方は対象外）

### 5. テーマ・概要

「地域資源をいかした文化事業」

文化政策や文化施設を取り巻く環境が変化している中で、「地域資源」をいかすということがよく言われます。地域の公共ホール・劇場は、地域の環境や特性、人材をいかす方針を立て、それに沿った事業の企画制作を通して創造性を育み、住民、芸術家とのパートナーシップを形成する必要があります。「地域資源」をいかした様々な事業例を参考に、「地域資源をいかすとは」を考察し、これからの施設運営のあり方について構想していきます。

## コーディネーター・講師紹介

### ● コーディネーター

真田弘彦 | 新潟市文化スポーツ部 参事・政策監、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 副支配人  
[メッセージ]

公立ホールや劇場等は、その設置自治体の文化政策が背景にあって建設されているものです。芸術・文化を対象とした公共政策であり、文化をいかして地域（都市）をどのようにしていくのか？地域（都市）住民の生活をどのように変えていくのか？そして、政策を実施する戦略基地（現場）として公共ホール・劇場等があるものと考えています。

また、公共ホール・劇場等の管理運営を取り巻く環境に変化を与えたもの、与えるものとして、法律の整備や改正、政策の見直しなどがあります。

近年は、国策に結ばれて求められる価値が変化し、期待される役割が多様化しています。文化芸術の価値を高めることから経済や社会への波及性に対する価値観が重視され、地域の特色や地域の資源をいかした文化事業を行うことが求められています。本マネージャーコースでは、地域資源に着目し、自治体の文化政策とその政策を実施している施設の文化事業を紹介しつつ、心豊かな生活と活力ある社会を創出する施設運営を行うための課題を共有し、今あるべき公共ホール・劇場等のあり方について皆さんと一緒に考えたいと思います。

#### [プロフィール]

昭和 52 年 4 月新潟市教育委員会採用と同時に地域住民の練習と発表の場をもつ、当時先進的施設であった新潟市音楽文化会館の建設事業に舞台技術スタッフとして関わる。11 月のオープン後、施設の舞台音響スタッフとして市民の文化活動をサポートする。その傍ら新潟市ミュージカル研究会の設立に関わり、市民ミュージカルのプロデューサー・制作として 13 年間活動する。平成 6 年から平成 10 年まで新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）の建設事業担当セクションに配属され管理運営計画・事業計画の立案に従事する。同館オープンから平成 17 年 3 月まで事業課に所属し、演劇、能楽等の事業の企画・制作を担当する。平成 17 年 4 月から 2 年間新潟市水族館（マリニピア日本海）勤務、平成 19 年 4 月から 5 年間新潟市文化政策課勤務後、再びりゅーとぴあに配属され、事業課長、企画部長、副支配人を歴任して文化事業及び施設運営に従事する。平成 29 年 4 月から新潟市文化スポーツ部政策監とりゅーとぴあ副支配人を兼務している。

### ● 講師

松井憲太郎 | 富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ 館長

山口茂徳 | 小美玉市四季文化館「みの〜れ」館長 兼  
小美玉市小川文化センター「アピオス」館長

太下義之 | 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 主席研究員/芸術・文化政策センター長

### ● 共通ゼミ講師

藤村順一 | 兵庫県立芸術文化センター副館長

# 研修プログラム

10月16日	13:15~13:30 オリエンテーション
	<b>ゼミ1</b> 13:30~15:30 講師：真田弘彦 参加者の皆さんが日頃どのような課題を抱えていて、何を期待して本コースへ参加したのかなどについて共有しながらコミュニケーションを図り、後のゼミの議論を活発に進めていくための入り口にします。
	<b>ゼミ2</b> 16:00~18:00 講師：真田弘彦 文化施設を取り巻く環境の変化を、公共ホールの歴史的流れとホール運営に影響を与えてきた法律の整備や改正等について概観し、なぜ地域資源を生かすことが重視されているのかということ共有していきます。

10月17日	<b>ゼミ3</b> 10:00~12:00 講師：真田弘彦 文化的都市イメージの構築と文化活動の活性化を目指してきた劇場の政策構造を紹介し、施設の所有者である自治体と管理運営者である指定管理者の役割と責任を再確認し、あるべき公共ホールの在り方について議論します。
	<b>ゼミ4</b> 13:00~15:00 講師：松井憲太郎 都心から30分圏内にあり、住民と芸術家とのパートナーシップを特徴としたキラリ☆ふじみの取り組みを紹介していただき、「地域資源をいかすことと課題」について講師を交えて議論してみます。
	<b>ゼミ5</b> 15:15~17:15 講師：山口茂徳 合併を契機に3館を核として「住民主役・行政支援」を基本に掲げ、街の文化化と活性化を目指している小美玉市の取り組みを紹介していただき、「人を資源としていかすことと課題」について講師を交えて議論してみます。
	<b>ゼミ6</b> 17:30~19:30 講師：太下義之 東京2020オリパラ競技大会の開催を契機に、「日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会に相応しい次世代に誇れるレガシーを創り出す」という「文化プログラム」に着目し、公共ホール・劇場からの発信について考えてみます。
	19:45~21:15 <b>交流会</b> *文化政策幹部セミナーとの合同

10月18日	<b>共通ゼミ</b> 10:00~12:00 *文化政策幹部セミナーとの合同 講師：藤村 順一 行政幹部とホールのマネージャーが合同で参加するこの共通ゼミでは、大きく変化しつつある地域経営の中、公立劇場を拠点とした未来志向の文化政策の方向性を探ります。そのために、自らも県庁マンとして豊富な経験を有するとともに、復興のシンボルでもある兵庫芸術文化センターの立ち上げから今日に至るまで中心となって動かしてきた藤村副館長をお迎えし、年間70万人の誘客を誇る劇場が直面する課題とそれに対する取り組みについてお話をいただきます。その上で、参加者それぞれのご経験、視点から、劇場を取り巻く状況について理解を深化させ、共有するとともに、課題に対する戦略を議論したいと思います。
	<b>ゼミ7</b> 13:00~15:00 講師：真田弘彦 参加者の皆さんからグループに分かれていただき、各々の地域資源を共有しながら事業企画や運営面での活用計を立ていただきます。作業を通して施設運営の在り方に対して視野を広げたいと思います。
	<b>ゼミ8</b> 15:15~17:45 講師：真田弘彦 地域資源をいかすためには地域資源を再認識することが必要であり、地域内の様々な活動団体などとの連携構築も求められます。総括として、今回のゼミを通して気になったこと、日頃抱えている課題などについて意見交換をして、消化不良を解消したいと思います。
	17:30~17:45 <b>修了式</b>

## 総評

### コーディネーター 真田弘彦

マネージャーコースに参加いただきました皆さま大変お疲れ様でした。公共ホールの管理運営に携わる者にとって繁忙期での開催でしたが、参加いただいた皆さんが様々な課題を持ちつつも前向きに業務に取り組んでいることを感じた3日間でした。

また、ゼミを担当していただきました講師の方々、サポートいただきました関係者の方々、大変お世話になりました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

今回のマネージャーコースは「地域資源をいかした文化事業」をテーマとして、全体のゼミを組み立てました。ゼミ内容を考える中で、改めて「地域資源」をいかすということに向き合うと、公共ホールがいかす「地域資源」とは何か？ということに正直悩んでしまいました。

地域資源を広くとらえると、その地域特有の資源でありソースと言えますが、どちらかというところ「文化財」「自然景観」「伝統工芸」「特産品」などが印象として浮かびあがってきます。「文化財」「自然景観」なら観光政策、「伝統工芸」「特産品」なら産業政策に結びつくということは考えるに易いことですが、文化政策に関わる公共ホールと結びつく「地域資源」とは何か？当然その地域に伝承されている「伝統芸能」などの保存継承や「文化財」など歴史的建造物での演奏会を開催するなど数多く紹介されている事例のとおりです。

そこで、今回のマネージャーコースでは、それぞれの時代の変化による公共ホールの変遷とハード・ソフト両面の課題と解決策を再確認し、なぜ近年「地域資源」をいかすことが求められるようになったのかを、公共ホールを取り巻く環境に変化を与えている法整備や改正、それに伴う政策の見直しなどから探ってみることにしました。

大きな視点として、そこには東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力をあげる一連の政策である「地方創生」と文化政策における国策との関連が窺えます。

文化芸術をいかす地方自らの取り組みに対する国の支援策が、一律の文化芸術振興策から「地域資源」と言われる地域特性をいかすことにより、地域間の連携を推進し地域の活性化と様々な社会の課題解決を図り、心豊かな国民生活と活力ある地域社会を構築していくことが重要視され、その役割を担う社会機関として公共ホールに大きな期待が寄せられてきていることを確認していただきました。

また、公共ホールのバックボーンとなる劇場法から捉えると、劇場・音楽堂等＝公共ホールは施設及びその施設を運営する人的体制により構成されると定義され、公共ホール自体が「地域資源」そのものであると考えられます。そしてホール外に存在する「地域資源」もかならず人により守られ維持されている総体になります。「地域資源」をいかすということは双方の人が関わり合い結ばれます。人と人が結ばれると双方の想いや知恵などが交わり刺激し合い、「新たな気づき」「地域住民の意識の変化」「新しい魅力の創出」などに繋がります。

そのためにはホール外に目を向ける、積極的に出向くことなども重要で、そのことが地域アイデンティティの「発見」「再発見」「再生」にも繋がります。新たなエネルギーと行動を生み、ひいては地域への愛着や誇りを地域住民の中にもたらし広げていくことになるのではないのでしょうか。

さらに、公共ホール自体が文化芸術を継承し、創造し、発信する場として、新たな「地域資源」を生みだしていく様々な可能性をもち、地域のアイデンティティを発信することで地域（都市）を外部にアピールしていくことも考えられます。地域住民の文化的権利としての活動と地域活性を優先することも含め、公共ホールの存在理念の選択肢は施設の規模や立地条件などによって異なると思いますが、理念や運営方針を明確にしていくことが所有者である自治体の文化政策の存在とともに重要になることを確認しました。

今回参加していただいた皆さんは、開館してからすでに50年程経過している施設から来年開館予定施設の管理運営や準備業務に携わっていて経験年数も幅がありました。いずれにせよ、それぞれの施設を牽引している立場として様々な苦労や悩みを多く持っていることは事実ですが、皆さんが自分の役割に対して責任をしっかりとって仕事に向き合っていることを誇らしく感じました。

一緒に考え学ぶ研修の場である本マネージャーコースは終わりましたが、私たちは現場での実務を通して日々新しいことを経験し吸収していくことと思います。ぜひ、今後も連絡を取り合い、互いに相談できる関係を本コースのレガシーとしていただけたら嬉しいです。どうか皆様が、これからも良きお仕事ができることを願っています。



## ゼミ記録

第1日 10月16日 (月)

---

● **ゼミ1「課題共有とコミュニケーションづくり」**  
講師：真田弘彦

ホールマネージャーコースの最初のゼミということで、3日間のプログラムに関して概要を簡潔に説明した後に、参加者から自己紹介を通し仕事の内容や抱えている課題・心配事などについてお話ししていただきました。管理職的な立場として実務経験も豊富な方が多いことから、課題も老朽化対策、指定管理者制度への対応、市民（地域住民）との協力体制の構築など組織的かつ現実的な課題が多いということ共有できました。



● **ゼミ2「劇場とは何か？／劇場の役割とは何か？」**  
講師：真田弘彦

地域（村）の人たちが力をあわせて造り上げ、地域（村）全体で維持してきた公共ホールの原点とも言える歌舞伎小屋や農村舞台からはじまり、公会堂、市民会館・文化会館、専門ホール建設までの変遷をたどり、ハード面の抱える課題と解決策、そこから発生してきた運営面の課題を再認識していただきました。さらに劇場運営のバックボーンとして、今後の文化政策や公共ホールが取り組む事業の方向性に影響を与えられられる文化芸術振興基本法（改正法含む）と劇場・音楽堂等の活性化に関する法律をとおして、公共ホール＝劇場・音楽堂等に求められることが実演芸術の企画制作や普及啓発・人材育成の他に地域社会の維持、共生社会の実現に資する事業が明確に求められていることを確認し、そのことから「地域資源」の活用が重要視されてきていることを認識していただきました。



## ゼミ記録

### 第2日 10月17日(火)

#### ● ゼミ3「事例紹介① りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館」

講師：真田弘彦

地方都市新潟に在りながら、市民の文化的権利実現や地域活性化を意図しつつも都市戦略の拠点施設として芸術志向の劇場運営を目指し、演劇と舞踊作品を積極的に発信しているりゅーとぴあの取り組みを紹介した。特に理念(使命)とそれを実現していく政策(目標・戦略)と施策・計画(戦術)などの体系からなる劇場の政策構造が自治体と共有されていることの重要性を説明した。また音楽、演劇、舞踊の3部門の芸術監督を配置していることをはじめ、様々な戦術を用いて取り組む各種事業に参加している人材が文化芸術以外の分野で活用されるなど資源化していることを紹介し、公共ホール=劇場・音楽堂等は資源を創り出すことも担っていることに意識をもっていた。



#### ● ゼミ4「事例紹介② 富士見市民文化会館(キラリ☆ふじみ)」

講師：松井憲太郎 | 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ館長

富士見市民文化会館(キラリ☆ふじみ)の松井館長から活動について紹介していただきました。都心から30分程の位置にあり、ある意味都心での商業ベースをはじめとする多様な公演を鑑賞することが難しくない圏域となっている富士見市で、どのような取り組みを行っているのか私自身も楽しみにしていました。松井館長の歯切れの良いお話から、地域特性や変遷をしっかりと踏まえ、公共ホールとしての本来的な役割をとおして、市民が地域や自らの可能性を再発見し、さらに充実・発展させていくこと。ひいては市民生活の充実と地域社会の発展につなげていこうとする松井館長の姿勢を強く感じました。また芸術監督、アソシエイトアーティストを配置し、芸術家とのパートナーシップや芸術家と市民の協働による創造活動をとおして施設と市民の絆をコミュニティとして築いていました。さらに公共の広場として農業祭など芸術以外の活動に施設を開放して、キラリ☆ふじみが市民のための地域資源だという意識もっていただくことに努めているように思いました。目指すはプロとアマ皆で楽しむ共同性と多様性のある芸術活動です。



## ゼミ記録

● **ゼミ5「事例紹介③ 小美玉市四季文化館みの〜れ」**  
講師：山口茂徳 | 小美玉市四季文化館「みの〜れ」館長 兼  
小美玉市小川文化センター「アピオス」館長

ゼミ4に続き、茨城県小美玉市四季文化館みの〜れの山口館長（小川文化センターアピオス館長兼務）から活動について紹介していただきました。小美玉市は平成18年（2006年）に2町1村の合併で誕生した人口約5万人の自治体です。ここには市民の文化権確保や地域コミュニティの活性化を第一主義とする公共ホールの理想的な運営の一つといえる計画があります。平成24年から平成33年を期間とする「小美玉市まると文化ホール計画」で、「根を張ってこそ花が咲く」をビジョンに掲げ、住民主役・行政支援を基本とした事業推進体制を構築し、まちの文化化と活性化を目指していました。地域住民が学校のようにあるサイクルで入れ替わるなど、住民の皆さんが参加しやすいように工夫されていて、企画、広報、裏方、表方運営、アウトリーチまで住民の皆さんが参加・参画しています。今回のマネージャーコース参加者の中には市民活用事例の勉強、市民協働、事業への市民のかかわり方を参加動機や課題にしている方がいましたが参考になりましたでしょうか。小美玉市には地域住民が地域資源だという本質があったように思いました。



● **ゼミ6「劇場が取り組む文化プログラム」**  
講師：太下義之 | 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング  
主席研究員/芸術・文化政策センター長

このゼミでは三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングで芸術・文化政策について調査・研究をされている太下さんをお招きしました。ゼミのテーマは上記のとおりでしたが、内容を少し変更して、太下さんからは「劇場・音楽堂における社会包摂・いま公共劇場に求められる役割とは」をテーマとして、改正された文化芸術基本法と法律の中で定めることとされている文化芸術推進基本計画から社会包摂が何故求められているのか、関連するキーワードの解説と公共劇場に求められる役割や社会包摂に関する概念などについて、事例を交え説明していただきました。また文化プログラムについて、ロンドンオリンピックの取り組みと2020年のオリンピックに向けてスタートしている文化プログラムへの可能性に対して事例を交えたお話も興味深い内容でした。最近の公共ホール関係者が集まるシンポジウムなどで必ずと言っていいほど社会包摂をテーマに扱ったコマがあります。このゼミでは社会課題に対して劇場がどこまで担えるのかについて考えさせられました。



## ゼミ記録

### 第3日 10月18日(水)

---

#### ● 共通ゼミ「兵庫県立芸術文化センター」 講師：藤村順一 | 兵庫県立芸術文化センター副館長

文化政策幹部セミナーとの共通ゼミでは、兵庫県立芸術文化センターの藤村副館長をお招きしました。事業内容や事業規模からして、全国の公共ホールのトップ館のリーダーとして劇場運営している藤村さんのお話にはいつも迫力があります。そしてご自身の果たす役割と責任を明確にもち、県と芸術監督との間で劇場が目指すべき方向性をしっかり示し、様々な困難に立ち向かいながら海原を航海する豪華大型客船の舵を取るがごとく劇場運営していることに毎回刺激を受けます。劇場運営をとおした経験から発せられるキーワードがたくさんありました。現場主義(方針・収支・組織に対する権限と責任)、独立運営、説明責任、県民の投資、パブリックシアターの3要素=劇場と芸術監督と芸術集団、経営主体の重要性=使命、目標、戦略、検証、劇場の評価は公演単体ではなく年間経営等々、改めてこのキーワードに向き合うと何故かワクワク感とエネルギーが湧いてきます。参加された皆さんはどうでしょうか。



#### ● ゼミ7「地域資源いかした企画づくりと発表」 講師：真田弘彦

参加者の皆さんからグループに分かれていただき、これまでのゼミでの事例紹介を踏まえつつ「地域資源をいかすとは？」について話し合っていたいき発表してもらった。視点としては地域に既に存在する資源をいかすことも考えられるし、公共ホールとして先々資源として残っていくものを創り出すということも考え方としてあることを意識していただきました。参加者からは有形無形の様々な資源があげられました。次のステップとして参加者の全員から地域資源をいかした企画について発表していただきました。既存の地域資源をいかすにはその資源にかかわる人との関係づくりを含めコーディネートが必要になってきます。大変な作業になるかもしれませんが、施設の外に目を向け新しいことにチャレンジすることは自分自身を逞しくしてくれると思います。今後の皆さんのご健闘を願っています。



## ゼミ記録

### ● ゼミ8「ディスカッションと総括」

講師：真田弘彦

最後になるゼミでは参加者の皆さんの消化不良をできるだけ減らしたいと思い、改めて一人ひとりから課題解決に向けた質問を受けることに時間を使わせていただきました。本コースの最初のゼミでも、それぞれの課題を共有するために自己紹介と併せてお話していただきました。地域特性やホール規模の違いがあるものの、課題や悩み事については共通していることが多いように思いました。運営組織内の課題、施設の所有者である行政との関係、指定管理者制度に関わる課題、施設の老朽化対策、市民との協力体制など参加者の立場を反映した現実的なことが多く発言されました。自身の進行の悪さもあり時間が足りなくて修了式後に少し時間をいただくことになってしまいました。

参加していただいた皆さんは、ラボを終えて各施設に戻り、課題に向き合いながら業務に邁進していることと思いますが、公共ホール・劇場へ大きな期待が寄せられていることをエネルギーにして、各施設が地域住民から自分たちの大切な地域資源だと言ってもらえることを目指していただきたいと思います。



## 参加者名簿

07.福島県	かわらだ とうじ 河原田 東司	特定非営利活動法人カルチャーネットワーク 副理事長兼白河文化交流館コミネス副館長兼事業課	白河文化交流館コミネス 開館年 2016年 大ホール 1,104席 小ホール 321席
	No. 1	〒 961-0075 福島県白河市会津町1-17 TEL 0248-23-5300 / FAX 0248-23-5315	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
07.福島県	かたやま たかし 片山 俊	特定非営利活動法人カルチャーネットワーク 事業課・主査	白河文化交流館コミネス 開館年 2016年 大ホール 1,104席 小ホール 321席
	No. 2	〒 961-0075 福島県白河市会津町1-17 TEL 0248-23-5300 / FAX 0248-23-5315	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
11.埼玉県	きよみや あきお 清宮 章郎	(公財) さいたま市文化振興事業団 主査	さいたま市民会館いわつき 開館年 1969年 ホール 622席/90㎡
	No. 3	〒 336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3259 / FAX 048-837-2572	自主事業 b. 1本～10本 事業予算
13.東京都	ないとう たえこ 内藤 妙子	(公財) 大田区文化振興協会 文化芸術振興課・担当係長	大田区民プラザ 開館年 1987年 大田区民プラザ 511席/1,428㎡ 大田区民ホール・アプリコ 1477席/2,022㎡ 大田文化の森 259席/371㎡
	No. 4	〒 146-0098 東京都大田区下丸子3-1-3太田区民プラザ TEL 03-3750-1611 / FAX 03-3750-1150	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
13.東京都	はせみ まき 長谷見 麻紀	(一財) 町田市文化・国際交流財団 副館長	町田市民ホール 開館年 1978年 大ホール 862席/1,302㎡
	No. 5	〒 194-0022 東京都町田市森野2-2-36 TEL 042-728-4300 / FAX 042-729-6730	自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
21.岐阜県	やまだ まこと 山田 誠	岐阜市民会館 課長補佐	岐阜市民会館 開館年 1967年 大ホール 1,501席/1,318㎡ 展示ギャラリー 180席/367㎡ 会議室 80 80席/185㎡
	No. 6	〒 500-8812 岐阜県岐阜市美江寺町2-6 TEL 058-262-8111 / FAX 058-262-8114	自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
22.静岡県	こばやし かずみ 小林 和美	(公財) 静岡県文化財団 事業課長	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 開館年 1999年 大ホール 海 4,626席/1,720㎡ 中ホール 大地 1,209席/404㎡ 会議ホール 風 498席/405㎡
	No. 7	〒 422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2-3-1 TEL 054-203-5714 / FAX 054-203-5716	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	あとみ ゆみ 跡見 由美	(一財) こまき市民文化財団 事業グループ 主査	小牧市市民会館 開館年 1971年 大ホール 1,334席/1,024㎡
	No. 8	〒 485-0041 愛知県小牧市小牧2丁目107番地 TEL 0568-71-9700 / FAX 0568-77-8207	自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満

23.愛知県	おおた ただす 太田 匡	(公財) 豊田市文化振興財団 文化部 文化事業課 副主幹	豊田市民文化会館	
			開館年	1981年
No. 9	〒 471-0035 愛知県豊田市小坂町12-100 TEL 0565-31-8804 / FAX 0565-35-4801		大ホール	1,708席/14,749㎡
			小ホール	436席/2,476㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
27.大阪府	おかもと ともあつ 岡本 友厚	東大阪市文化創造館 副統括責任者(副館長)	東大阪市文化創造館	
			開館年	2019年
No. 10	〒 577-0801 大阪府東大阪市小坂3-2-29 城戸八戸ノ里駅前ビル5階D TEL 06-4307-5772 / FAX 06-4307-5778		大ホール	1,500席
			小ホール	300席
			多目的室	
			自主事業	d. 21本以上 事業予算
27.大阪府	ほり さちよ 堀 祥代	(一財) 貝塚市文化振興事業団 事務局 主幹	貝塚市民文化会館 コスモシアター	
			開館年	1993年
No. 11	〒 597-0072 大阪府貝塚市畠中1-18-1 TEL 072-436-5031 / FAX 072-436-5036		大ホール	1,224席/2,800㎡
			中ホール	483席/820㎡
			小ホール	170㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
27.大阪府	かさたに みのる 笠谷 実	(公財) 堺市文化振興財団 常務理事	フェニーチェ堺 (2019秋開館予定)	
			開館年	2019年
No. 12	〒 590-0946 大阪府堺市堺区熊野町東4-4-20 林ビル6階 TEL 072-232-0220 / FAX 072-232-0110		大ホール	2,000席
			小ホール	312席
			大スタジオ	287㎡
			自主事業	事業予算
33.岡山県	いお さちこ 井尾 祥子	(公財) 真庭エスパス文化振興財団 事業推進課 上級主事	久世エスパスセンター	
			開館年	1997年
No. 13	〒 719-3214 岡山県真庭市鍋屋17-1 TEL 0867-42-7000 / FAX 0867-42-7202		エスパスホール	501席/559㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
40.福岡県	くぼた りき 久保田 力	(公財) 筑後市文化振興公社 事務局長	サザンクス筑後	
			開館年	1995年
No. 14	〒 833-0047 福岡県筑後市大字若菜1104 TEL 0942-54-1200 / FAX 0942-54-1205		大ホール	1,311席/772㎡
			小ホール	504席/490㎡
			イベントホール	200席/178㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

## 開催概要

### 1. 開催日程

平成 30 年 10 月 17 日（木）～10 月 18 日（金）

### 2. 会場

一般財団法人 地域創造  
（東京都港区赤坂 2-9-11）

### 3. 開催体制

主催：一般財団法人 地域創造

### 4. 参加対象者

地方公共団体の文化政策担当幹部職員や、文化事業担当等の職責を持つ職員

### 5. テーマ・概要

「公立文化施設の管理・運営」

平成 15 年度に指定管理者制度が導入されて以降、多くの施設が制度を取り入れて、多様な担い手による公共文化施設の管理・運営がなされています。一方で、制度を導入せずに直営により管理・運営を行う文化施設が少ないわけでもなく、それぞれの環境に合わせて多種多様化してきている公立文化施設の現状をとらえ、各地で行われている先進事例等から公立文化施設の在り方について考える機会とします。施設の老朽化や、少子高齢化社会といった今後の課題についても、中長期的な視野で検討していきます。



## コーディネーター・講師紹介

### ● コーディネーター

垣内 恵美子 | 政策研究大学院大学 教授（文化政策）

[メッセージ]

本年度のテーマは公立文化施設の管理運営です。

これまで地方自治体における文化政策の主要な施策は、施設建設・維持に集中的に資本投入することで文化活動を側面支援し、ひいては住民サービスにつなげようとするものでした。1960年代から進んだ文化施設建設は、1980年代の文化需要の高まりと地総債の導入等の制度的バックアップにより加速されましたが、ハードの整備に注力するあまり、使命や活動内容、人的体制等が十分考慮されなかったことは、後のハコモノ批判を招来しました。

2003年に導入された指定管理者制度は、住民サービス向上とコスト削減という一見矛盾する目的を持ち、批判や反発もありましたが、現在、劇場で半数以上、ミュージアムでは約3割の施設で採用されています。

一方、経済社会の成熟化の中、文化に対する期待も大きく変化し、文化が持つ多様な力を地域の持続的な発展につなげることが求められるようになりました。本セミナーでは、こういった社会の大きな動きを視野に入れつつ、具体的事例に即し、指定管理者制度を含めた施設運営の方向性とその先にある地方文化政策のあり方を皆さんと検討したいと思います。

[プロフィール]

東京大学法学部卒、シドニー大学大学院経済学修士、東京大学大学院工学博士。文部省（現 文部科学省）入省。衆議院、国連大学、一橋大学教授などの役職を経て、2004年より現職。専門は文化政策全般であり、特に定量分析、評価論を中心に研究成果を積み上げている。文化的な価値の評価、資金調達システムや、制度論に詳しく、論文、著書多数。直近の業績としては、「チケットを売り切る劇場」（水曜社、2012）、英語出版物、中国語出版物にも論文を収録。また編著者として Culture, Creativity and Cities (Suiyo-sha, 2016) などがある。（一財）地域創造理事、芸術文化振興基金専門委員会委員。国土審議会委員。ICOMOS 会員。兵庫県立芸術文化センター運営評議会委員。茨城県、神奈川県、富山県、三重県、川崎市、横浜市ほか多くの自治体で文化振興条例・計画策定、文化施設運営、指定管理、評価にかかる委員を務める。日本都市計画学会論文奨励賞（2002年）、日本計画行政学会論文賞（2009年）

### ● 講師

園山土筆 | 松江・森の演劇祭芸術監督、認定 NPO 法人あしづえ理事長

竹内 淳 | ミューザ川崎シンフォニーホール事業担当部長

### ● 共通ゼミ講師

藤村順一 | 兵庫県立芸術文化センター副館長

# 研修プログラム

1 0 月 1 7 日 第 1 日	13:15～13:30 <b>オリエンテーション</b>
	<b>ゼミ1</b> 13:30～15:30
	講師：垣内恵美子 イントロダクションとして、地方自治体の文化政策の経緯と現状をできる限り客観的データに基づいて把握します。特に20世紀末からのローカルガバナンスの大きな動きとその背後にある考え方、インパクトに着目します。
	<b>ゼミ2</b> 15:15～17:15
	講師：垣内恵美子 文化施設を取り巻く環境の変化を、公共ホールの歴史的流れとホール運営に影響を与えてきた法律の整備や改正等について概観し、なぜ地域資源を生かすことが重視されているのかということとを共有していきます。
	<b>ゼミ3</b> 17:30～19:30
	講師：園山土筆 松江しいの実シアターは、日本初の公設民営劇場です。市場性の薄い立地、施設での活動をいかに継続してきたのか、理念、運営、課題を直接ご担当からご紹介いただき、地域拠点としての可能性について議論します。
	19:45～21:15 <b>交流会</b> *ホールマネージャーコースとの合同

1 0 月 1 8 日 第 2 日	<b>共通ゼミ</b> 10:00～12:00 *ステージラボ「公立ホール・劇場マネージャーコース」との合同
	講師：藤村 順一 行政幹部とホールのマネージャーが合同で参加するこの共通ゼミでは、大きく変化しつつある地域経営の中、公立劇場を拠点とした未来志向の文化政策の方向性を探ります。そのために、自らも県庁マンとして豊富な経験を有するとともに、復興のシンボルでもある兵庫芸術文化センターの立ち上げから今日に至るまで中心となって動かしてきた藤村副館長をお迎えし、年間70万人の誘客を誇る劇場が直面する課題とそれに対する取り組みについてお話をいただきます。その上で、参加者それぞれのご経験、視点から、劇場を取り巻く状況について理解を深化させ、共有するとともに、課題に対する戦略を議論したいと思います。
	<b>ゼミ4</b> 13:00～15:00
	講師：竹内淳 ミュージア川崎は過去の公害の負のイメージを払拭し、市民の音楽への熱い想いを実現するために創設された専門性の高いコンサートホールであり、音楽のまち川崎の拠点です。街づくりとの関係に焦点を当て、地域の期待に応えるための方策など、現場からのご報告をいただき、今後の方向性を探ります。
	<b>ゼミ5</b> 15:15～17:45
	講師：垣内恵美子 総括として、グループディスカッションを行い、市民文化活動との連携やネットワーク構築などの具体的な環境整備、制度設計を構想します。これらを通じ、参加者各自が地域文化政策の視座を明らかに持つことができれば、このプログラムは成功といえるでしょう。
	17:30～17:45 <b>修了式</b>

## 総評

コーディネーター 垣内恵美子

本年度のテーマは公立文化施設の管理運営です。

公共文化施設の管理というと、指定管理者制度が中心的なテーマになりますが、本セミナーでは、この制度がなぜ導入されたのか、まずその背景にある考え方を正確に把握することから始めました。そのために、地方自治体の文化政策の経緯と現状をできる限り客観的データに基づいて把握することとしました。特に20世紀末から現在まで続くローカルガバナンスの大きな動きと、その背後にある考え方を確認することに重点を置きました。すなわち、政府が必要な住民サービスをできるだけ提供するというかつての福祉国家から、いわゆる小さな政府への転換です。ここには、政府の財政難もありますが、多様化・高度化する住民ニーズに対し、誰がサービスを提供するのがよいのか、という問いが横たわっています。実際、政府が常に適切な住民サービスを提供できるわけではありませぬし、政府が行うことが効率的とも言えませぬ。適切なサービサーをどう確保するのかという観点から公共文化施設の管理運営を考えてみると、競争原理の導入、結果主義、そしてPDCAの必要性などが浮かび上がってきます。こういった背景を理解し、全体の流れを俯瞰することで、公立の劇場が果たすべき役割や責任が何かを改めて確認できたと考えております。

指定管理者制度は、本来、自治体の自主的かつ地域の実情にあった運用を可能とするものです。自治体は施設のミッション、活動内容を明らかに示し、そのために適切な管理運営主体を選定するわけですが、その際の選択肢の一つが指定管理者なのです。したがって、その導入の有無、公募かどうかも含めて、自治体が決定し、結果について住民に説明するという立て付けになっています。この説明責任に関しては、劇場の評価と関連して、数値で表すことが大変難しく、悩ましい部分ですが、これまでの実証研究の一部成果を共有することを通じ、定量評価の可能性と限界について確認しました。

本セミナーでは、上述の基礎的情報を共有したのち、指定管理の先進事例として3人の特別講師から、各劇場展開の経緯、現在の到達点、そして将来課題をお話いただきました。詳細は各ゼミの概要をご覧くださいと思いますが、日本初の公設民営劇場である。しいの実シアターの指定管理者である認定NPO法人あしづえ理事長の園山土筆氏からは、演劇文化を地域に浸透するというミッションのもと、「振り返り」により、指定管理の基本であるPDCAサイクルをしっかりと回して事業改善を図り、成果につなげることの重要性を具体的な事例を基にご紹介をいただきました。また、兵庫県立芸術文化センター副館長の藤村順一氏からは、現場に権限と責任を委ねる現場主義、県民目線の運営、そして適材適所の人材配置の重要性とともに、これらを可能にする自由度の高い制度として指定管理者制度をとらえる視点を学ぶことができました。また、ミュウザ川崎シンフォニーホール事業担当部長の竹内淳氏からは、地域協働に向けた各事業展開とともに、日常的な行政と現場の対話（コミュニケーション）の重要性を改めてご指摘いただきました。いずれの劇場も、地域社会と住民に向けたメッセージを常に意識し、結果を出すことで、劇場の存在意義を高めていることを改めて確認できたと思います。

最後のゼミでは、上述の基礎的情報、知見を踏まえ、グループ・ディスカッションを実施しました。指定管理者と行政の在り方に関して検討するグループでは、行政と現場の役割分担の明確化や、指定管理者制度の正しい理解の必要性が話し合われるとともに、両者の調整を行うバランスの重要性も指摘されました。一方、文化とまちづくりを検討するグループは、文化が地域にできることは何かについて議論しました。施設で完結せず広く社会に開かれた活動展開が求められるとの指摘や、市民ボランティアとの能動的な協働の推進、行政の役割についても言及がありました。いずれのグループにおいても、自治体の文化政策が明確に示されることが基本となるとの認識が共有されるとともに、直接顔を見ながら議論することで、多様な立場で参加された皆さんの相互理解が深まったように思われます。短期間のセミナーでしたが、参加された方々が地域の文化政策、劇場の在り方に自分なりの視座を持つことができたとすれば、このセミナーは成功だったと考えています。

## ゼミ記録

第1日 10月17日 (水)

---

### ● ゼミ1 「地方自治体の文化政策の経緯と現状」

講師：垣内恵美子

これまでの地方自治体の文化政策は、劇場や博物館などの文化施設の建設・維持に集中的に資本投入することで文化活動を側面支援し、ひいては住民サービスにつなげようとするものでした。1960年代から進んだ文化施設建設は、1980年代の文化需要の高まりと地総債の導入等の制度的手当てにより加速されました。ただ、ハードの整備に注力するあまり、目的や活動内容、人的体制等が十分考慮されなかったことは、後のハコモノ批判を招来し、指定管理者制度の導入につながっていきます。この制度は、住民サービス向上とコスト削減という一見矛盾する目的を持ち、いまなお批判や反発もあります。しかし、今日、劇場では半数以上、博物館では約3割で採用され、多様な担い手による公共文化施設の管理・運営が可能となり、実際、導入の効果として、顧客目線の強化、地域運営との協働の試みの多様化などが実感されるようになったことを確認しました。



### ● ゼミ2 「公立文化施設の実証研究の成果紹介—

経済効果（りゅーとぴあ）、観客属性と社会へのインパクト（兵庫芸術文化センター）、アウトリーチの可能性と限界（群馬交響楽団）」

講師：垣内恵美子

現在1800を超える劇場のうち、9割強が自治体設置です（社会教育調査）。市場で成り立ちにくい文化サービスを地域で提供するには公的支援が不可欠ですが、文化もエビデンスフリーではありません。また、今日、文化が持つ多様な力を活用することも求められています。劇場はこういった社会のニーズにこたえているのでしょうか。実証研究の結果からは、劇場は訪問者だけでなく、非訪問者にとっても大きなメリットを与えており（子供たちのためになる、まちの魅力を高めるなど）、劇場には入場者数のみでは評価できない価値があるといえます。また、来訪者の消費は地域経済に波及効果をもたらします。一方、劇場に来る人は、一般に高学歴、高齢、高所得です。近年期待が集まるアウトリーチには、受けた人の意識を変え、支援したい気持ちを高めるといった効果がみられていますが、可処分所得が多くないとチケットが購入できないため、鑑賞者創出という点ではなお壁があるようです。



## ゼミ記録

### ● ゼミ3「事例紹介① 松江しいの実シアター」

講師：園山土筆 | 松江・森の演劇祭芸術監督、  
認定NPO法人あしづえ理事長

松江しいの実シアターは、日本初の公設民営劇場です。市場性の薄い立地の中、活動をいかに継続してきたのか、しいの実シアターの指定管理者である認定NPO法人あしづえ理事長で劇団あしづえ主宰の園山氏から直接ご紹介いただきました。演劇文化を地域に浸透するというぶれないミッションのもと、「振り返り」によるPDCAサイクルをしっかりと回していくことで事業改善を図り、現在は学校や企業へのワークショップ、国際演劇祭などの事業を実施、着実に成果を上げています。人材育成に関する質問に対しては、しいの実シアターでは、紆余曲折ののち、現在、文化分野にこだわることなく、地元の課題に理解が深い人材を幅広く発掘、育成しているとのことでした。また、資金調達のノウハウについても質問がありましたが、直接企業のトップにミッションを説明する正攻法が最も効果的であるとの指摘には、参加者全員、劇場のミッションの重要性を改めて認識したことと思います。



### 第2日 10月18日(水)

### ● 共通ゼミ「兵庫県立芸術文化センター」

講師：藤村順一 | 兵庫県立芸術文化センター副館長

このゼミでは、兵庫県立芸術文化センター副館長の藤村氏を迎え、同センターの経緯と現状、将来課題についてお話を伺いました。氏は、県の行政職員としての経歴と現場の責任者としての経験を兼ね備え、同センターを建設前から支えてきました。同センターは大震災からの復興のシンボルですが、設立当初は、若い団員によるユースオケへの批判や、西宮市での立地は誘客が難しいといった指摘がありました。これらの弱みを強みに変えて事業継続するため、現場に権限と責任を任せる現場主義、県民目線の運営、そして適材適所の人材配置などが不可欠であることをご紹介いただきました。客観的なデータも適宜使いながら、行政と現場をつないでいく氏の手法は、参加者にも大きな刺激となったことと思います。あわせて、芸文センターの柔軟な運営を可能とする自由度の大きな制度として指定管理者制度をとらえるという認識も極めて示唆に富むものと考えられます。



## ゼミ記録

### ● ゼミ4「事例研究② ミューザ川崎シンフォニーホール」

講師：竹内 淳 | ミューザ川崎シンフォニーホール事業担当部長

ミューザ川崎シンフォニーホールは過去の公害の負のイメージを払拭し、市民の音楽への熱い想いを実現するために創設された専門性の高いコンサートホールであり、音楽のまち川崎の拠点です。このゼミでは、特にまちづくりとの関係に焦点を当て、ミューザ川崎シンフォニーホールの竹内事業担当部長からお話をいただきました。オーケストラ事務局やIT企業を経験した部長からは、継続的なアウトリーチ活動が、劇場に來ない人々へのアプローチになるとともに、近隣の企業等との連携を生み出すツールにもなりうることをお示しいただきました。あわせて、行政と現場の対話（コミュニケーション）の在り方について具体的にご紹介いただきました。専門性を生かしつつ、現場で課題を抱え込むことなく、積極的に行政と情報共有していくとともに、長期的展望に立ち行政ニーズを先取りしていこうとする姿勢は今後の劇場運営に必ず求められるものと思われれます。



### ● ゼミ5「グループディスカッションー

指定管理者制度、文化とまちづくり」

講師：垣内恵美子

最後のゼミでは、これまで得られた基礎的情報、知見を踏まえ、グループに分かれてディスカッションしました。指定管理者と行政の在り方に関して検討するグループでは、行政と指定管理者（現場）の望ましい役割分担、指定管理者制度の正しい理解の重要性などが話し合われるとともに、両者の調整を行うバランスが必要との指摘もありました。一方、文化とまちづくりを検討するグループは、文化が地域にできることは何かという大きなテーマについて議論しました。ここでは、施設で完結しない活動展開が必要であることや、市民ボランティアとの協働の在り方について改めて議論されるとともに、行政の役割についての言及がありました。いずれのグループにおいても、自治体の文化政策が明確に示されることが必要との認識が示されるとともに、参加者が直接議論することで行政側、指定管理者（現場）側といった立場を超えて相互理解が深まったのではないのでしょうか。



## 参加者名簿

1	いのうえ しんご	旭川市
01.北海道	井上 真吾	教育委員会 社会教育部 文化振興課／旭川市民文化会館 主任
2	にわの なつき	仙台市
04.宮城県	庭野 夏樹	文化観光局 文化スポーツ部 文化振興課 主事
3	かとう やすこ	南相馬市
07.福島県	加藤 安枢子	市民生活部 生涯学習課 文化振興係 係長
4	ねもと まりこ	NPO法人カルチャーネットワーク／白河文化交流館コミネス
07.福島県	根本 真理子	管理課 施設班
5	ありやま ひろゆき	埼玉県
11.埼玉県	有山 裕之	県民生活部 文化振興課 総務・財団担当 主幹
6	よこた よしこ	秩父市
11.埼玉県	横田 佳子	秩父宮記念市民会館 館長
7	おの みつぐ	千葉県福祉ふれあいプラザ
12.千葉県	小野 貢	サブマネージャー
8	わだ ともひこ	(公財)多摩市文化振興財団
13.東京都	和田 知彦	／多摩市立創造文化施設 (パルテノン多摩) 事業課 課長
9	いづか ありさ	茅ヶ崎市
14.神奈川県	飯塚 亜利紗	文化生涯学習部 文化生涯学習課 主任
10	おおたわ けん	(公財) 神奈川芸術文化財団
14.神奈川県	大田和 健	総務課 係長
11	やまぐち れいこ	三方郡 美浜町
18.福井県	山口 れい子	生涯学習課 課長



12	のなか ひろとも	(一財) こまき市民文化財団
23.愛知県	野中宏朋	事業グループ チーフマネージャー
13	こんどう まちこ	鈴鹿市
24.三重県	近藤 眞智子	文化スポーツ部 文化振興課 課長
14	あめみや のりえ	堺市
27.大阪府	雨宮紀江	文化観光局 文化部 文化課 課長補佐
15	おか くにひこ	神戸市
28.兵庫県	岡 邦彦	市民参画推進局 文化交流部 文化交流課
16	おかだ ともあき	(公財) 尼崎市文化振興財団
28.兵庫県	岡田 知晃	／尼崎市総合文化センター (あましんアルカイックホール) 総務部 部長
17	きはら よしひろ	(公財) しまね文化振興財団／いわみ芸術劇場
32.島根県	木原 義博	総務広報課 副館長 兼 総務広報課長
18	たけうち りょう	山口市
35.山口県	竹内 僚	交流創造部 文化交流課 歴史文化のまちづくり推進室 主幹
19	なかむら きよかず	北九州市
40.福岡県	中村 清和	市民文化スポーツ局 文化部 文化企画課 ／(公財) 北九州市芸術文化振興財団 劇場管理課 課長
20	ひらの たかひろ	熊本市
43.熊本県	平野 孝博	経済観光局 文化・スポーツ交流部 文化振興課 副課長

平成30年度ステージラボ「滋賀セッション」「公立ホール・劇場  
マネージャーコース」／文化政策幹部セミナー 事業報告書

編集・発行 一般財団法人 地域創造  
〒107-0052

東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階  
TEL 03-5573-4050 / FAX 03-5573-4060

発行日 平成31年（2019年）3月